

「岳陽」と共に

あくまでも自分史として

(総集版)

P a r t 3

(第 25～36 号)

編集・発行

井上講四／堂本彰夫

令和 6 年 10 月

※本版は、令和5年4月から始めた新通信『岳陽』と共に」を、通して読んでいただく
こうと思い、令和6年度の前半分（第25～36号）を総集したものです。改めての、
ご笑読をお願いするものです。なお、一部若干の手直しをしていますこと、ご了解
下さい。ちなみに、「総集版 Part 1」（創刊号～12号）は令和5年11月に、「総集版
Part 2」（13号～24号）は令和6年4月に、それぞれ発刊しています。下記HPにア
クセス下さい。

※連絡先

〒901-2225

沖縄県宜野湾市大謝名 3-13-24

教育協働研究所～岳陽舎～（井上講四宅）

Tel:098-963-9282／E-mail: gakuyou17@outlook.jp

HP URL : <http://www.gakuyou.jp>

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 25 号

発行日
2024. 4. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「カネと地位」が人を惑わす！まさかこんなことが！

新たな年度の始まりで、こんな話題を採り上げるとは思ってもいかなかったが、今般の騒動（大谷翔平の元通訳・水原一平氏が起こした違法賭博事件）は、改めて、いろんなことを教えてくれた！その中で、私が一番取り上げたいことは、『カネと地位』が絡むヒロイズムは危険である」ということ、しかも、たとえ大金を稼ぐ身になっても、少なくとも「現役の（若い）時は、それに浸るべきではない」ということである！必ず、「誰かに、それが悪用される！そのことを、若者（大谷）は知るべきである」ということである！

さらに言えば、「プロスポーツ選手の『ヒーロー性』は、そのプレーによってのみ発揮されるべき！」であり、ましてや、他人の借金の肩代わりをすることは（そうではなかったよ）であるが！、その「ヒーロー性」を自ら冒涇するものであり、俗な言い方をすれば、「思い上がりも過ぎる！」ということである（これは、決してそれに無縁な高齢者の僻み根性ではない！）！ちなみに、それは、かの「グロブプレゼント」騒動？も同じである！金銭的にはそれが出来ても、あのようない形で行く必要があったのかどうか（その重み？様々な思惑が絡む？それらを知ることは、二十代の若者には難しい？）！

ただし、いずれにしても、これからが勝負である！カネ（取入）の多寡はどうあろうとも、若者（大谷）は、ここから何を学び、そして、今後のプレーに、いかに臨むかである！まさかこんなことになるとは思ってもいなかったかもしれないが、そして、別な意味での高い代償を払うことにはなりましたが、それを乗り越えての「スーパーヒーロー」とならなければならぬ！改めてそう思う！頑張れ、若者（大谷）！

○予定していた旅？は、すべて終わった！

さて、改めて、近年の私のスケジュールからすれば、まことに異例でもあった？県外への旅が（尤も、現役の人であれば、ある意味普通のことかもしれないが！）、この一日（4月1日）で終わった！僅か2か月間で、東京、鹿児島、そして宮崎へと行ったわけであるが、沖縄と違った光景、とりわけ自然風景が、何故か心を和ませてくれた（沖縄には申し訳ないが、九州出身の私である！）。そして、最後の旅であった宮崎においては、もう一つの楽しみであった古墳・史跡探訪（生目古墳群他）も、私なりに（あくまでも！）満足できるものであった（ほとんどが歩きでもあったので、運動療法にもなった！ただし、古代史関係については、別コーナーにて！）

ちなみに、宮崎では、久しぶりに、あの懐かしき「ソメイヨシノ」、そして、季節外れの「つくしんぼ」（ほとんどが「スギナ」状態ではあったが！）を見た。まさに、春爛漫ということであった！ただし、桜の花そのものは、「オオシマザクラ」の方がきれいであった（近くの「総合文化公園」にて）！！どうでもよいことであるが（まったくの俗人？）、最初の一泊は、我が奥さんの意向？で、噂（あるテレビ番組）の「ドーミーイン・ホテル」に投宿し、雨模様ではあったが、末の孫（新4年生と一緒に、奇妙な体験（特に「夜泣きそば」！）となった。ということ、今後の予定は、今のところないが、幸い（こじつけ）娘達の居住地（宮崎／福岡／岡田）は、古代史にとつては重要な場所であるので、機会（口実？）を見つけては訪ねたいと、改めて思うのであるが…

○果たしてどんな動きが出てくるか？私は待っている…！

とここで、先月（16日）、玉城青少年の家との共催で、「学びつなげる地域づくりを考える（オンラインセミナー）」（当期第2回目）を行ったことは、先号でも述べたが、とにもかくにも、そこから、新しい動き、新たな、関係者（思いのある人達のネットワークづくりが、いかに生まれる（広がる？）かが、私の関心事（願）であったことは、繰り返すまでもない（そのための、最後の？働きかけ／お節介？であった！）！

現在、聞くところによると、今回協力してもらった、N県のTさんのところへ行くという話が出て来ているようであるが（私が同行するかどうかは、今のところ？であるが！）、今後、そのことも含めて、どのように展開していくかである！ただし、新たな年度替わりの時期でもあるので、その具体的な動きは見えない！まずは、それぞれの部署／活動場所での体制（態勢）づくりが、目下の課題／関心事であるということか？

ただし、そうした、言わば「業務のルーティン化（惰性化）」は、往々にして問題の先送りや責任の散在・不透明を生み（人が替わるので仕方がないとも言えるが）、折角のチャンスや、みすみす見逃してしまうこともある！ましてや、新たな人的構成ともなると、様子見やいびつな人間関係を生み出してしまふ恐れもある（結構これは、頻繁に見られる？）！

という中で、そうした、まさに現職のみなさんの思いや苦勞も顧みず（本当は、このようには言いたくないのであるが！）、私の方は、その一環として、私なりのスタンスをつくっているのである（何せ暇で、自由でもあるので！）、果たして如何に？

ちなみに、そのスタンスというのは、そうした「心ある人」達の出会いの場と情報・課題の共有を目指した（簡単に言えば「交流」であるが！）「岳陽チャンネル」の活性化であり、そこにおける「教育協働アカデミー」のスタートである！具体的なプログラムの創出は、今回、いみじくも一堂に会した4人の人物との話し合いによって決めようと考えているが、果たしてそれが、いつ、どのように実現していくのか？私の眼下の願いは、それなのであるが…

（井上）

○すべては土地(国土)にあり！新人の栄光と苦悩!!

今回、再びであるが、かの「イスラエル/パレスチナ問題」を知る(考える)絶好の記事(ネットから)を見つけた！その記事には、次のような文面があった！

第二次大戦後に自分の国を分割されたパレスチナのアラブ人たちがいかに苦しい思いをしてきたか、しかし同時に、ユダヤ人がどうしてあの地にイスラエルを建国しなければならなかったのかが伝わり、深いジレンマを感じます。パレスチナとイスラエルの関係を考えるときに、私たちはどこまで歴史を遡って、この問題の起源を考えるべきでしょうか。双方がともに、この地を自分たちの起源としており、どちらかの側からだけで語るのには不十分です。これを理解するためには、ユダヤ人の数千年の歴史を語りなければならぬし、パレスチナ人の歴史もまた何世紀も昔まで遡ることができる。

詳しい経緯については、これ以上は、ここでは書けないが(否、その資格、否々、その能力自体も有していないが)、本間に、土地(国土)の問題は、まさしく本源的な問題であり(今般のロシア・ウクライナ戦争も然りである)、かの「グレートジャーニー」で始まった、まさに新人(ホモサピエンス)の栄光と苦悩の産物と言えるのかもしれない！すなわち、その土地(国土)を我が物とすることが出来れば、諸資源はもろんであるが、そこにおける権益(生命の保持を含む)のすべてを、自分達自身で享受することが出来るのである！そして、その逆となれば、それこそ悲惨なものとなるわけである！

ただ、残念ながら、その土地(国土)の分配(所有は、様々な歴史的経緯の中で(多くは戦争や侵略行為を伴って)、時にはいびつで、不安定なものであった)として、今も、その影響は各地に残っている(否、現在も、そのことが進行中というところもある)!!ただ、その土地(国土)でしか生きていくことが出来ないという覚悟と知恵が、その昔(縄文+弥生→)、融合(混血)というものを生み出した!!それが、極東の最果て「日本」なのでもある!!

○「顕彰」について思う!!

これは、何度か紹介してきた、私(この場合は井上)以下、同じ)の受賞に関わる後日談ともなるが、最初の卒業生の有志達が、驚くばかりの賞状額を特注し、私の受賞の「顕彰」を行ってくれた(昨日/7日、その取り付けが完了した!)。ただ、余りにも立派過ぎて、正直言うと、いささか恐縮している！折角の思いでもあるので、有難く頂いてはいるが、ふと思うのは、何のための、否、誰のための顕彰かということでもある(もちろん、彼らを責めるつもりは毛頭ない!そんなことをしたら、彼らに失礼でもある)!!

ところで、先日訪れた宮崎では、県の「総合文化公園」に、6つ?の「銅像」が建立されていた!それぞれ、同県が誇りとした、いわゆる「故郷の偉人」であろうが、あまりにも多く(密集している)、却って軽く見られるようにも思えた(多少斜に構えた言い方をすると、その意義は、どうもそれを建立した側にある!!)物象化した顕彰よりも、心の中に確と残るようなものが、本当はよい?私はそう思いたいのであるが、もちろんそれは人それぞれである!!

〈短歌に託して〉人は、花に似て、それぞれに咲く!!

・何故に惑わす “カネ”と“地位”

それでも 無縁であれ スーパーヒーローなら!

・懐かしきソメイヨシノ そしてつくしんぼ!

ただ花自体は オオシマザクラ!!

・待っている! 今度こそはと 願いつつ

しかもそれは 今回限りとぞ!

・生きる土地 身を巡って 幾千年!

如何にその不幸を 解けると言うのか!!

・顕彰も 一つ間違えば 意義半減!!

気高き発意 彷徨(さまよ)うことなかれ!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕(6)

○古代日向国の実像を求めて―その1―怪しげな「皇宮神社」!!

さて、この度、別記のように、宮崎を訪れた―僅か4泊5日の旅であったが、もう一つの旅の目的であった、「宮崎神宮」や「生目古墳群」にも行くことができ、新たな発見や気づきを得ることが出来た―なかでも、「宮崎神宮」の元宮とされる「皇宮」神社の存在は、古代の日向勢力の移動の痕跡として、大いに注目されることである(当然、それは、「神武東征(神話?)」や「日向(三)代(神話?)」そして、「西都原古墳群」等の真相(謎?)と関わっている)!!ちなみに、それらの場所は、長女一家の新居から、予想以上に近く、今度また、ゆつくりと探索したいと思った!

ところで、かの「皇宮神社」についてであるが、「宮崎の宮」の跡と顕彰されているところで、現在の宮崎神宮の西北600mの小山に鎮座。祭神は、神日本磐余彦尊(神武天皇)。相殿神として、神武天皇の日向での后神で、東征には同行せず、日南市油津にある吾平津神社(乙姫神社)に祀られている吾平津姫命。神武天皇とその吾平津姫命の間に生まれた手研耳命。神武天皇と大和の五十鈴媛命との間に生まれた神渟名川耳命(後の綏靖天皇)である。

伝承によると、15才で皇太子に即かれた神武天皇は、生まれ育った同県西諸県郡高原町の狭野神社(旧宮崎神宮別宮)の地から、その皇宮屋(皇宮神社)に宮居(まゐ)られたという。45才の時に、宮崎を出発。その聖蹟の地として創建されたとされるが、創始は不詳。旧社殿は、明治10年に、宮崎神宮の撰社とされたらしい。

こうした伝承が、どの位の史実を伝えているのかは、もちろん私には分かり様もないが、はつきりしていることは、その宮崎からは、瀬戸内の土器等が色濃く出土しているということであり、かの神武東征において、豊予海峡(または備讃瀬戸?)で出会った海人族とは、彼らのことではなかったかということである!!(つづく) (堂本)

〈編集後記〉こうして、今号も、一応は出来上がったが、次なる第一歩という点では、まだまだ不満もある!!ここでしか書けないような話題、切込みが、もう少し欲しいということであるが、果たしてどうなっていくのか?そのカギの一つが、最後の古代史関係であるが、相手は途方もなく大きい(そして複雑)―だが、その突破口は確実にある!! (井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 26 号

発行日
2024.4.30
編集・発行
井上講四/堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「架橋」ー教育とは、まさにそれである?!

昨日(27日)から、今年のGWが始まったが、私にとつては、残念ながら毎日がそれなので(笑?)、取り立てて気にするようなことではない!そんな中、いつものネット記事に、『学校は本来の役割を忘れてしまった』日本の学校が子どもにとって、しんどい場所になってしまった根本原因』というものがあつた!私も気になっていたことなので、こういうことが書いてあるのかと、具体的に見てみた。

その記事は、内田樹著『だからあれほど言つたのに』(マガジンハウス新書の一部を再編集したものとあつたが、「学校は何のためにあるのか」ということで、同書では、「今の学校は子どもたちを格付けする評価機関のようなところになっている。それは本来の学校教育の目的ではない。子どもというものは『なんだかよくわからないもの』であるということから始めるべきなのだ」と指摘しているという。

「中世以来、子どもは七歳までは『異界』とつながる『聖なる存在』…だが、その年齢を過ぎると、そのつながりが切れてしまう。アドレッセンス(※思春期)の終わりというのは『異界とのつながり』が切れてしまう年齢に達したということ…:そうやって人間は『聖なるもの』から『俗なるもの』になる。だから、『この世ならざるもの』と『この世を架橋するもの』には童名を付けるという習慣がある。…:彼らはこの世の秩序には従わない存在である。…」

この後も興味を湧かす話が続くのであるが、要は、子どもは、そういう存在であるから、そのことを踏まえ対応すべきである!それが、「架橋」ということである!まったくその通りであろう!ただし、橋自体を渡るのは本人である!

○卒業生に、「面白い先生(小学校教師)がいる!

ところで、その「なんだかよくわからないもの(聖なるもの?)」としての「子ども」に対して、私からすると、とても面白い対応をしているように思える先生がいる!卒業生のN君であるが、先日久しぶりに、我が岳陽舎を訪ねて来てくれた!今回もまた、自分の学校(小学校)の児童のことを話してくれたが(ただし、個人情報流出には当たらない!笑、毎回、彼と子ども達とのやり取りを、ある種の話芸のように再現してくれるのである!)

ここでは、そのリアリティを伝えることは出来ないが、ふと思つたのは、彼自身が、ここで言う「架橋」となっているのではないかということである(多分自覚はないであろうが?)!近年は、保護者や同僚との関係もなかなか難しいものとなっているが、他ならぬ子ども達との関係自体も変わってきている!要は、深く踏み込めない?そういう意識やスタンスが、他ならぬ「教師と子どもとの関係」にまで及んでしまつていくということである!

彼は、おそらくそうしたことは、基本的には分かっているが、目の前にいる「この子だけには」、何とか自分の出来ることはしたい!そう思っているのではないのか?だが、そうは言つても、意に反する結果が生まれる場合もある?その辺りのことは、ある意味紙一重なのであるが、結果的には、その子(達)に受け入れられていくようではあるので(保護者からも)、頑張つて欲しいと、改めて思う次第である!とにかく、そうした「架橋」が出来なくなれば、教師のやりがい半減する!一般的な「働き方改革」!どうも現状では?でもある?!!

○何が、どう崩れているのか?そこが見えていなければ?!

ということでは、(ここでは)くどいようであるが、この「架橋」について、もう少し書き加えておきたい!先の記事によれば、「学校は子どもを『聖なるもの』から『この世』に誘導する装置(…:今では六芸のうち『書』と『数』だけしか教えなくなった。これは子どもたちを最初から『この世の世界』のフルメンパーとして遇することである。…:それは違う:学校は子どもたちを『あちらの世界』から『こちらの世界』へそつと移動させる、きわめてデリケートな作業を求める場:半ば野生の存在である子どもたちを文明化していくというプロセスは『アドレッセンス』との決別を子どもたちに強いること…:しばしば彼らは学校に通うことそれ自体で激しい痛みを経験する。」

そして、「かつての日本人は、子どもは壊れやすいもの、傷つきやすいものだ」と知つていたので、丁寧に扱つた。異界にまだ半身を残している『聖なるもの』だと知つていたので、子どもを『敬する』仕方をわきまえていた。それはもう現代社会の常識ではない。それでも、直感にすぐれた教師たちは、学校教育が子どもたちにとつて外傷的経験になるリスクを感知して、子どもたちを傷つけないことを優先的に配慮している。けれども、そのような配慮が人類的な深い意味を持つことを理解している人は教育行政の要路にはたぶん一人もいない。…:」。

さらに、『学校が本来の役割を忘れてしまった』ことよりも、保護者や社会が『学校に学校の役割以外のものを求めた』ことの方が問題(…:学校は本来は学びの場:教師が一方的に教えるだけではなく、子ども自身で考えることを促すことが学校の役割…:しかし、保護者は自分の子供の嫌まで学校に求め…:子どもがスーパーで万引きすると店長は保護者ではなく学校へ連絡…:高校生が詐欺に遭うと有識者が『学校で消費者教育をすべきだ』と…:何でもかんでも学校の役割となり、その多くは子どもにとって面白くないことなので、学校嫌が進み…:教員も余裕がなくなつて、テストの結果を次の指導に生かすところまで行かず、ただ、採点して評価するだけ…:」。

とまあそういうことであるが、改めての課題は、それをいかに是正すればよいかである!ある意味正当な状況説明は出尽くしている?だから、その解決方法が問われるのである!(井上)

○「社会」の二つの形である国(家)ではあるが?!

さて、捉えようによつては、表の記事と同根の話題となるが、再度、ここに来て、まさしく古くて新しい(だから永遠の?)テーマである、「社会と国(家)」の関係(違くないことだと思ふけどね)。さて、コミュニケーションはあるはずの「国(家)」ではあるが、その内実が変わつてきている?否、そこにおける両者の関係(違くない)が、ますますその懸隔を広げている?だから、改めて、そのことを考えてみる必要がある?そういうことである?!

と国(家)の関係(違くない)を考えさせる時はないであろう!すなわち、そこには、戦争とか、重大な国家間関係があつても、一方では、それに対する為政者の体たらく・専断があり、他方では、それについての国民の無関心・諦めがあるといふことであるが、誇張して言えば、折角の社会システムが存亡の危機にあるといふことである?!

何故なら、「国(家)」というものは、「社会」と、ある意味では同じであるが、その機関や対外関係においては、それ自体が、その社会とは異なつた存在となる!だから、「国民」は、その成り行きに直接関与出来ない!さらには、その関与の手段が、事実上閉ざされているならば、それは、自国のためとか、民主主義とか言われても、肝心の、「社会」という体を成していないといふことにもなる(ただし、小社会は無数にある)!!

しかるに、もちろん、今のところ、その危機は、特定の人物(独裁者)、政党からもたらされたものとは言えるが、事の本質は、おそらくそこにはない!!「国(家)」というものの自体に、その芽がある!だが、だからと言って、それを失くすことは出来ない!ならば、その関係自体を正當にしていく他ない!それが、「社会」でもある!

○改めて、PTA問題は、現代社会の縮図でもある?!

ここに、例のPTA問題に関わつて、面白いコメントがある!「こういうのは、5年10年と経過しなきや分らないことだと思ふけどね。さて、コミュニケーションはどくなつてんだろね?」。つまり、そこに、「コミュニケーション」の視野があるのかどうかであるが、まったくの同感である!「PTAは必要。そういう組織がしつかりして、その事が学校運営や地域社会の安定に繋がつてゐる。」「本当に子どもや先生の目線から必要な『親』や『地域』のあるべき活動を語つてほしい。」ともある!

だが、一方では、その存在自体の是非(不要論も含めて)を問ふことは、今まさに必要なことではない!ただし、それは、ことPTAだけの問題ではない!これまでに創り上げられてきた、ある意味あらゆる組織・団体に言えることなのである!お互いの人間関係や働き方、そこにある価値観やルールそれ自体を改めて見直し、そこから新たなあり方を構築すべき時なのである!だから、PTA問題は、現代社会の縮図でもあるといふことなのである?!

何故なら、「国(家)」というものは、「社会」と、ある意味では同じであるが、その機関や対外関係においては、それ自体が、その社会とは異なつた存在となる!だから、「国民」は、その成り行きに直接関与出来ない!さらには、その関与の手段が、事実上閉ざされているならば、それは、自国のためとか、民主主義とか言われても、肝心の、「社会」という体を成していないといふことにもなる(ただし、小社会は無数にある)!!

しかるに、もちろん、今のところ、その危機は、特定の人物(独裁者)、政党からもたらされたものとは言えるが、事の本質は、おそらくそこにはない!!「国(家)」というものの自体に、その芽がある!だが、だからと言って、それを失くすことは出来ない!ならば、その関係自体を正當にしていく他ない!それが、「社会」でもある!

特別コーナー「堂本彰夫の古代史旅枕」

○古代日向国の実像を求めて―その2―

ある意味ひよんなことから、古代日向国の実像を探つてみたいと思ひ始めた私であるが、考えてみたら、その暴挙には、それなりの必然性があったようにも思われる?というのも「記紀」に示されている「天孫降臨」や「日向三代」、そして、「神武東征」の物語はもろろんであるが(日向自身、その物語の地である)、かの「八咫鳥」こと「タケツヌミ命」の出身もそこ、先号で述べた「宮崎神宮/皇宮神社」や「生目古墳群」、さらには「西都原古墳群」、そして、それらの地に群在する「地下式横穴墓群」等が、かの北部九州(とりわけ「高良山」周辺)と、近畿・大和周辺の状況の双方に、色濃く関わつていようと思われるからである!―

何とも奇妙で(つまり説明困難)、その事実をどのように受け止めればよいのか?素人の私には、とても手に負えるものではないが、ただ、ここで今一つだけ突破できるのではないかと思ひ始めているのが、その地域の出身と目される「日下部氏」(※多様な表記がある)の存在である(一説によると、「土の中から出現したとも」)!すなわち、同氏は、先の北部九州(とりわけ「高良山」周辺)と、近畿・大和周辺の双方に顔を見せているのである!例えば、前者では「高良大社」の「大祝」として、後者では「仁徳天皇」と日向出身の妃「鬚長姫」の子「大草香皇子」といった具合である!ちなみに、その「鬚長姫」の父親が、現在も同地に残つている「諸原^{もろはら}」の名を負う「諸原君(牟諸原)」である!

もちろん、それらが、どの程度の真実かは分かり様もないが、この「日下部氏」(「阿蘇氏」、そして、それに関わる「神武の大和での長子「神八井其命」の後裔の「多氏」とも関係)が、この奇妙な関係を説明してくれるのではないかと!いふことでもある!また、それに関わつては、かの「景行天皇」の熊襲征討?話も、絶対に関わつてくる(他ならぬ「諸原君(牟諸原)」は、彼の孫とも)!!とにかく、改めてこれからである!((つづく) (堂本)

【編集後記】今年のGWも、前半が終わった!明日からは5月である!どんな日々が待っているか?ちなみに、10日には、例の馴染みの卒業生グループが訪問する!そして、ズーム交流も、二つある!やはり生身の交流・出合いは、元気が出る!!沖縄は、もう既に梅雨となつていっている(ただし、今日は、珍しく晴れ!薄曇り?)!!ユリが綺麗である!! (井上/堂本)

○改めて、PTA問題は、現代社会の縮図でもある?!

ここに、例のPTA問題に関わつて、面白いコメントがある!「こういうのは、5年10年と経過しなきや分らないことだと思ふけどね。さて、コミュニケーションはどくなつてんだろね?」。つまり、そこに、「コミュニケーション」の視野があるのかどうかであるが、まったくの同感である!「PTAは必要。そういう組織がしつかりして、その事が学校運営や地域社会の安定に繋がつてゐる。」「本当に子どもや先生の目線から必要な『親』や『地域』のあるべき活動を語つてほしい。」ともある!

だが、一方では、その存在自体の是非(不要論も含めて)を問ふことは、今まさに必要なことではない!ただし、それは、ことPTAだけの問題ではない!これまでに創り上げられてきた、ある意味あらゆる組織・団体に言えることなのである!お互いの人間関係や働き方、そこにある価値観やルールそれ自体を改めて見直し、そこから新たなあり方を構築すべき時なのである!だから、PTA問題は、現代社会の縮図でもあるといふことなのである?!

何故なら、「国(家)」というものは、「社会」と、ある意味では同じであるが、その機関や対外関係においては、それ自体が、その社会とは異なつた存在となる!だから、「国民」は、その成り行きに直接関与出来ない!さらには、その関与の手段が、事実上閉ざされているならば、それは、自国のためとか、民主主義とか言われても、肝心の、「社会」という体を成していないといふことにもなる(ただし、小社会は無数にある)!!

しかるに、もちろん、今のところ、その危機は、特定の人物(独裁者)、政党からもたらされたものとは言えるが、事の本質は、おそらくそこにはない!!「国(家)」というものの自体に、その芽がある!だが、だからと言って、それを失くすことは出来ない!ならば、その関係自体を正當にしていく他ない!それが、「社会」でもある!

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 27 号

発行日
2024. 5. 15
編集・発行
井上講四/堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「今を生きる力」ツルゲーネフは、黙して語らず!!

久し振りに、ネット記事から離れた話題となる? 実は、本日(8日)、過日突然外れた(壊れた?)三連入れ歯の差し替えで、行きつけの歯医者に行ったのであるが(これで、当分は大丈夫?)、偶の独り昼食をと思ひ、ある意味懐かしい「ツルゲーネフベンチ(私が勝手にそう呼んでいるのだが!何故なら、そのベンチには、「疲れたら休め、彼らもそう遠くへは行くまい」という、ツルゲーネフの、おそらく有名な作品の一節が書かれている。)の方に歩いていった!

もちろん、今回は、その近くのうどん屋さん(丸亀製麺)に行くためであったが、そのベンチで、一頻り、持参してしていた自作資料(古代史関係)を読んだ後、ふと近場の立て看板を見てみると、そこに、何と、あの五木寛之氏の講演会の案内掲示がしてあった! 期日、場所等は、当然? 目に留めなかつたが、何故か、その講演テーマには見入ってしまったのである! そのテーマとは、「今を生きる力」であったが、まさにそれは、時宜を得たテーマである!! ちなみに、そのベンチは、その看板(講演会案内)を立てている事務所(確か税理士関係?)のもので、そのさり気ないウィットと、今般の時事意識は、流石である、改めて感心もした次第である!!

ただ、そのテーマであるが、ふと思つたのは(これが、その歩きの妙味?)、「今(の時代)を」なのか、それとも「今(の自分)を」なのか? その双方の意味合いがある!! まあ、どうでもよいことであるが(先方には無縁のこと?)、私からすれば、前者は甚だ難しく、後者は、ある意味私的なことなので、どうにでもなる!! そういうことであるが、傍らの? ツルゲーネフさんは、ただ黙して語らずではあつた!

○やはり、Kさんのことは書いて置かねば!! しかし...

ところで、このことについては、もう、ここでは書くこともないと思つてはいたが、あることを絡めて書けば、多少は面白くなるかな? とも思ひ、敢えて書いておくことにする! そこで、まずは、そのあることであるが、それは、例の、私の受賞に関わつてのことである! かなり日数も経っているのですが、まさかこんなことがあるなんて夢にも思つていなかったので、Kさん(彼女は、以前退職大学院生として顔を見せていた! だし、ゼミ生ではない!)から、豪華な百合の花(カサブランカ)、そして、手紙が送られてきたのである!

ただし、事前に、彼女が、私の住所を知るために、県教委の方に照会の電話をしていたことは聞いていたので、贈り物、そして、その後の手紙(お礼の電話をした時に、その手紙のことは知らされていた!)、それら自体にはさほど驚きではなかつた(むしろ申し訳ないという思いが強かつた!)!! いずれにしても、何という心遣いなのか! 彼女の思いとか優しさとかが、身に染みて感じられたということである(もちろん、手紙の文面からも)。

とは言え、これだけの話であつたら、それこそ辞易もとのとなるので(Kさんには申し訳ないが、私の自慢話に終わる?)、それへの「オチ」も加えておきたい! 要は、珍しく私が、手紙を書いたということであるが、しかし、それは、自筆のそれでなかつたということである!! 最近、指の動きが思わしくなく、書くにも嫌な思いをしていたが、意を決してパソコンで作成! 何とも情けない話となつたということである(達筆な人が羨ましい?)!

○これもまた嬉しい話ではあるが、今度はとんだ思い違い!!

ところで、昨日(10日)、いつも集まってくれる、例の最後のゼミ卒業生達が、それなりに久し振りに、我が家(岳陽舎)を訪ねてきてくれた! 金曜日であつたので、かなり遅くからの来訪であつたが(だから、多少近隣に迷惑を掛けたかもしれないが?)、賑やかで、楽しい時間を過ごさせてもらった! マックスで11人(二人はIina 参加 だつたと思うが、最初来訪の知らせを受けた時は(かなり以前!)、何の目的で、誰らが来るのか、分からなかつたが(聞きもしなかつた!)、今度は、とんだ思い違いがあつたということである(これもまた、オチと言えば、まさにそうであろう?)!

改めて、それは、彼らが、何のために集まって来てくれたのかという理由である! 前日の連絡で、かなりの顔ぶれであることが分かつていたのであるが、ひよつとしたら、かの私の受賞のことで、改めてお祝いをするためと、勝手に類推していたのである! だが、あにはからずや、私の誕生日祝いだということが、その席の途中から分かつて、独り苦笑した次第だということである(余計なことであるが、多分彼らは、新聞記事を読んでいない?)!

ただし、それにしても、かなりの日数が過ぎているので(先月17日)、何か複雑な思いで、彼らの祝福を受けた私であるが、何の節目でもない今回の誕生日(72歳)を、このように祝つてくれた彼らには、喜びはともかく、感謝の極みであることを、ここでは記しておきたいということである! 飲食物(寿司とピザ、そして飲みもの)の用意、そして、数々の誕生日プレゼント! 何と幸せな高齢者なのであるか(否、そう思わなければ罰があたる!)!!

ということで、この間、そんなこんなで、何ともおかしな日々を送つた私であるが、一つだけ残念なのは、折角大勢が集まつて来てくれたのに、彼らと、個別な会話が、ほとんど出来なかつたことである! まさに贅沢な悩み? と言われるかもしれないが、彼らの日々(その後の人生模様、苦労話も含めて?)を、多少聞かせてもらいたかつたということである!! もちろん、それは、私の一方的な願望であり、そのことをあまり望まない者もいる(現にいた!) として増えている?)!! だから、そうしたこと、最早時代錯誤(老害?)? そんなことさえ思つたりもしたわけである!! (井上)

○自尊心を育むには「コミュニティが必要」!

やはり、そうであった!! そんなことを思いつつ、ここでは、再びネット記事での標記のことを書いておきたい! それは、『今を生きる思想 ジョン・ロールズ』: その『自尊心』とは、『自分が目指しているものが、価値があるものだと思うこと』『それを実現するだけの力が自分にはあるという自信』という二つの側面: 学習院大学教授玉手慎太郎氏が、政治哲学から見た『自尊心』について語る』である。もちろん、すべて紹介することは出来ないが、(その) 自尊心のためには安心して参加できる人間関係やコミュニティが大事: 誰にでも、なにか一つでも: 自分を認められるようなコミュニティがあることが、自由につながる。そして、「なぜ自尊心が基本財と言えるほど重要なのか: 自尊心を欠いている人は、たとえ自由や機会や権利を与えられても、それを利用することができないから:」。

さらに、「: 正義が実現されている社会とは、「人々の利益と負担の調停が適切になされている社会」: そのなかで: 興味深い考え方として、「基本財」というものがある。: 「合理的な人間なら、誰もが欲すると想定されるもの」(たとえば「所得」): 仕事をがんばる生き方にせよ、趣味に生きる生き方にせよ、: どんな生き方を選んでも、所得は必要: : なかでも、社会で分配をコントロールできるものを「社会的基本財」と呼び: 社会的基本財を十分に持っている人に、これをきちんと分配することができれば、正義にかなった社会が実現:」ともある!

要は、「社会的基本財として『権利』『自由』『機会』『富』という4つにくわえて、『自尊心の社会的基礎』を挙げている点です」であるが、私は、それを、自らの生への『自己肯定』(納得)と呼びたいが、これが、今、危機に晒されているわけでもある!!

○漁師町の伝統 女人禁制の神楽にあこがれる少女

神楽響く私の「ふるさと」 ~青森・牛滝地区~
久しぶりに、NHK番組「Dear にっぼん」を観た(12日)。番組案内によれば、「青森の小さな漁村で海の男たちが伝統の神楽を受け継いできた。ふるさとと神楽に憧れる女の子。女人禁制の風習に葛藤する姿に、漁師町の伝統を守る男たちはどう動くのか。: 去年の春、ひと組の夫婦が1男3女を連れて帰ってきた。小さな漁村の楽しみは、年に二回行なわれる伝統の神楽。『囃子をやりたい』と憧れる長女の聖奈ちゃん。しかし、神様が女を嫌うという理由で、100年以上の歴史で一度も女性の参加が許されたことはない。ひとりの女の子の願いを、伝統と生きてきた地区の男たちはどう受け止めるのか。それぞれの葛藤の日々を追う。」とある!

もちろん、番組を観た私であるので、なるほどということかと思うのであるが、私には、それ以上に、今の「教育」の危機とその解決方途を、ある種反転攻勢的に? 示しているようにも思えた!! どうか、詳しく語りたい!

〈短歌に託して〉「答えは見えていのに:」! ~>

・時代を生きる! 自分を生きる!

・その双方の力 それが必要なのだ!

・百合の花 その後に続く 我のオチ!!
だがそれもまた 我が人生の花!!

・嬉しい話ではあるが 今度はとんだ勘違い!!
それでもよいのだ! 顔を見れば!

・自尊心 否、自らの生への納得

それは コミュニティによってのみ得られる!

・いみじくも 各自の生き様に すべてが関わる!

そこに 見出すべきヒントあり!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕 ④

○古代日向国の実像を求めてーその3ー

先に、日向出身の「目下部氏(彦) 龍襲族の一つ」の存在について触れたが、思えば、そこには、ある意味途轍もなく大きな謎が横たわっているようにも思える!! と言うのも、地理的には、まるで違った方向のそれ(距離的にも)であり、しかも、それぞれがまったく違った勢力(王権)であるならば、何故「目下部氏(彦)」はその北部九州と近畿大和の双方に顔を出すのか? ただし、私自身は、そうした北部九州勢力と近畿大和勢力は、まったく違った出自の勢力とは考えておらず、その意味では、南部九州(日向)との関係には、それほど違和感はない? ただ、改めて複雑にはなるが!!

さて、それはともかく、よくよく考えてみれば、例えば、もし「日向三代」や「神武東征」の話が真実であれば、その地理的關係(矛盾)は、速やかに解消する!! すなわち、「日向(代)」の話が、北部九州と南部九州(日向)との、そして、「神武東征」の話が、南部九州(日向)と近畿大和との關係といふことであれば、そこに関わっている南部九州(日向)の勢力(ここでは「目下部氏」)が、いずれにも顔を出すことは、ある意味自然なこととなる!! ということである!! なお、北部九州と南部九州(日向)の關係として北部九州にしか見られない「甕槌墓」が、南部九州(日向)の「阿多」にもある!! (であれば、それが「甕槌墓」の降臨語となっている!!)

とにかく、我々は、これまで、往々にして、北部九州が近畿大和かという視点で古代史の大枠を見てきたように思うが、他ならぬ南部九州(日向)との關係を加えた、言わば三すくみの史実存在に目を向ける必要が出てきたのである!! とは言え、そこに、「王(備) や「出雲」、そして、中国史書にはほとんど見えない?、縄文・弥生から続く東日本の勢力との出会い、軋機 共存の歴史が絡まっている!! だから、これからは、そうした視点の重要性を意識しながら、「記紀」を始めとする文献、それと連動させた考古史料の考察が求められる!! (ことである!!) (つづく) (堂本)

〈編集後記〉あつという間に、GWの後半も終わった! 入出の多さを理由(言い訳)に、今回も、ほとんど出歩かなかった私(達)であるが、6月、そして7月には、少し遠出の旅でも思っている!! 幸い7月の方は、福岡に行くことを決めたが(先程決まった!!)、それにしても、何らかの目的(口実)は必要である!! それがないと、やはり心苦しくもある!! (井上/堂本)

「岳陽」と共に

第 28 号

発行日
2024. 5. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○梅雨の「走り」と「入り」！何と柔軟な対応？だが…

沖縄は、昨日(21日)、ついに「梅雨入り」となった！
例年より11日遅いということであるが、しかし、
今年も、先月末(GW前)に、何とも紛らわしい？
「梅雨の走り」ということが言われていたので、何
故か？「梅雨入り」ということが、あまり実感され
ない！確かに、今日(22日)も、間断なく雨が降
っているが、そう思えるのである!!

○大雨／長雨、台風、そして再びコロナの増大？
ということ、今年もまた、正真正銘の梅雨が、ここ
沖繩でも始まった！昨日(23日)は、少し晴れ間も見え
たが(我が岳陽舎の近辺だけかもしれないが)、今日は、朝
からずっと、かなりの雨模様となっている！宮古島の雨
量が気になるが、不吉なことには？フィリピン東海上で、
今年初めての台風が発生する模様でもある！

と、ここで、日本には、4つの梅雨(菜種梅雨・梅雨・
すずき梅雨・山茶花梅雨)があるということだが、こ
こでは、通常の「梅雨」について、少し調べたこと
があるので、それを披歴したい。実は、梅雨入り・
梅雨明け・梅雨寒・空梅雨等、関係する言葉が多々
あるが、そこには幾つかの区分けがあるらしい！

ちなみに、その移動予想では、沖繩本島への直撃はな
さそうであるが、この本格的な梅雨(大雨／長雨)と重な
れば、かなりの被害が出るかもしれない!!梅雨の大雨／
長雨や台風による降雨は、ここ沖繩にあつては是非とも
必要なものであるが(特に今年は、ここまで水不足の懸念が
あつた)、度が過ぎると、それこそ大変な被害を被つて
しまうわけである(沖繩の悲哀と言えば、それまでだが?)!

例えば、梅雨・梅雨入り・梅雨明けは、「予報用
語」。梅雨の走り・梅雨の中休み・空梅雨・梅雨の
戻りは、「解説用語」。梅雨のような天候・入梅・梅
雨寒等は、「使用を控える用語」とかであるが、考
えてみると、何と柔軟な対応なのだろうかとも思つてし
まう(ただし、その基準の意味は難しいらしいが?)!!

と、ここで、この、いつもの憂鬱？に関わつて、私には、
もう一つ気掛かりなことがある！それは、折角最近、
馴染みの卒業生を始め、友人・知人の久々の来訪が多く
なりつつあるが(昨日も2人あつた)、こうした天候のい
たずらによつて、それが妨げられるということである！
しかも、かの新型コロナ感染の数も、いつのまにか増え
てきている(まだ、あまり騒がれていないが?)!絶対数は
ツのようである!

ちなみに、「梅雨の走り」は、梅雨前線が現れて
いなくても使うことがあり、判断が難しく、時期も、
「梅雨」よりは客観性に乏しいという!!すなわち、
「梅雨の走り」の判断は、主観による部分もあり、
気象庁でも、解説用語としては使えるけれども、予
報用語としては使っていないということである!
でも、庶民には、「梅雨入り」と思わせてしまう!!

とにかく、そういうことになれば、まさに二重の憂鬱
となる?わけであるが、楽しいことも、もちろんある!
否、自ら積極的に、そういうことを創り出さなければ!
そして、可能な限りの終活?を満喫しなければ…!!

○人の「生」と、その「承継」に想つ?

そんな中、先日、ついに?ある手続きを済ませてきた。まさに
「終活」の究極(最後のそれ?)となるが、いざ来たる、我が葬
送の場所(墓所)を決定してきたのである(もちろん我が奥さんと
一緒に!)!しかも、詳しくは書けないが(書いてはいけない?)、
墓石なしの共同埋葬という形である!いろんな選択肢もあるう
が、我々にとつては、それが一番の良策であり、納得の結論でも
あるということである!ちなみに、我々と同じような決定をして
いる人も多く、ゆくゆくは、彼らは、隣人、否、同居人というこ
とになるわけでもある!面白いものである!

ということ、(墓)石(ない話)とはなつたが(でも、これは、
決して「悪い話」ではない!笑?)、それとは別に、そして、気重な
話にはしたくないが、ここでは、人の「生」と、その「承継」に
ついて、もう少しだけ語つておきたい!と言うのも、考えてみれ
ば、ある意味当然であるが、人の「生」というものは、ある誰か
の「生」を受け継いだものであり、また、誰かの「生」を受け継
がれるものでもある!事情により、その直接的な「承継」がなさ
れなかつたものもあるが(これからもそうであり、それは、さらに増
える?)、その連綿と続く「承継」の姿・形が、かの墓所であり、
そこに我々の歴史が刻まれるわけでもある!!

しかし、問題は、そこにある、実際の「承継」の姿・形の存続
であり、それに対する、それぞれの、「今を生きる」人々の受け
止め方である!自国の命運や自家(家系)の行く末をどう考える
かということでもあるが、自(誰?)、称古代史研究者として書き
加えたいことは、例の「古墳」(墳丘墓)の被葬者と、それ
を作り(生前に作られる場合もあるが?)、祀り、祈りを捧げた人
達との関係や思いも、実は同じであつたということである!!

要は、そこには、ある人の「生」と、それが成した人間関係(血
統や勢力)とその意味(勢威や財)が誇示されているということ
であるが、そこに、その人の「生」と、その「承継」の価値が示さ
れているということもある!ただし、墓碑がないこともあり、
今となつては、その真相は不明であり、結果的には、かなりの徒
花ともなつている!!何とも、複雑ではある? (井上)

○何とも複雑な心境ではあるー大学の光と影!!

過日(24日)、NHKの「検証 大学改革 光と影」という番組(「ザ・ライブ」を観た！今更〜こういうテーマの番組を観ても仕方がない(ある意味腹立たしい〜)と、多少冷めた目で見始めていたが、途中から、ある人物の名前まで出て来たので(ある時期、R大学で一緒だった！顔も出ていたので、すぐに分かった！)、別な意味で興味が沸き、最後まで見届けてしまった!

例によって、その番組案内をネットで調べてみたが、それによると、「NHKに届いたあるメール。送り主は地方公立大学の関係者。学部の新設が進む一方、5年間で半数以上の教員が大学を辞めたという。改革の名のもとに、何が起きているのか。国立大学の法人化が始まって20年。国によるガバナンス改革は大学にどのような影響をもたらしたのか。単科大学だった下関市立大学。少子化や大学競争が激しくなる中、学部の新設を進めるなど総合大学化を掲げ志願倍率が上昇したという。一方、5年間で半数以上の教員が大学を辞めた。NHKでは退職者を対象にアンケートを実施。さらに学長や元学長などキーマンを取材。一体何が起きているのか。最高学府の存在意義を再考する。」とあった。

もちろん、ここでは、詳しいコメント(感想)をするつもりはない(スペースもない!)が、あの時のことを、少しだけ思い起こしてはいる(具体的には「国立大学の再定義」の時)！とにかく、大学は変わった！否、変わらせられた!!そして、最早、古き良き時代の「学問の自由」や「大学の自治」は完全に消失した!!ただし、憤慨や悲嘆だけでは、新たな姿・形は築けない!これだけは、はっきりしている!ならば、どうするか?答えは、実はある!!

なお、この番組は、「九州・沖縄の地元の話から、暮らし、経済、自然、文化:先の見えない混とんの時代だからこそ、確かな営み(ライブ)を深く見つめなおす。」とある。ある意味、ここにも、同根の答えがある!!

○梅雨時の鳥は、大変であろう?だが、一方の私も!!

話は、がらりと変わるが、梅雨に入って、先日二階のベランダに、羽を濡らした鳥が(名前は、流石に分らない!)、顔を見せた!と言っても、これまでは、知らない間に、備え付けの木製テーブルには、よく白い〇〇が付いているので、ひよつとしたら、その鳥なのかもしれない!!

だが、それはともかく、その時のそれは、多分、許容以上の雨粒を受け、いわゆる雨宿りのここに来たものだと思われるが、気のせいとか?私と顔を合わせても、すぐには逃げなかつたのである!!羽振るいをして、濡れを落とすのが先決ということかと思われるが、彼らは、宿命とは言え、本当に大変なのだ、つくづく思った次第である!

ということ、これ以上、彼らが何を考えているのか知る由もないが、一方で、彼らには、こんな私は、どのように見えているのであろうか?まさか、日中はパソコン、夜はテレビ、そしてまた、深夜はパソコンに興じる!そんな生き物と映っているであろうか?だとしたら、これもまた大変である!

〈短歌に託して〉本格的な梅雨を迎えて!〜

・梅雨の「走り」と「入り」!

柔軟な対応とは言えるが 庶民には同じ!!

・大雨/長雨 台風 そして再びコロナ?

変わらぬ憂鬱だが 楽しさあれば!!

・人の「生」と「承継」

その意味 あくまでも 今を生きる側にあり!!

・古き良き時代の 自由や自治?

それだとて 誰かが苦勞して得たもの!

・お互い大変 梅雨時の鳥と私!

だが、それもまた 今を生きるということ!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕 ㊦

○古代日向国の実像を求めてーその4ー

ということ、ここでは、南部九州(日向)の実体?について、改めて追りたいのであるが、もちろん、それに近づくための原材料を、私自身は持たない!ただ、以前から気になっていたのは、いわゆる「魏志倭人伝」に記されている「投馬国」のことである!説みや位置関係も、またまだ定かではないが、その国が「トウマツマ?国」であれば、それこそ南部九州(日向)の中心地ということになる(現在の西都原古墳の近く。その「都万」には「書補社」があり、かの「玉花咲耶姫」が祀られている!)

また、その国の「長官」は「彌彌(弥弥)弥弥(ミミシ)」、「副官」は「彌彌那利(弥弥那利)ミミナリ」(弥弥名)という呼ばれていた。奴国の隣の不弥国から南へ水行20日の位置で、5万余戸の人家があったという。ちなみに、近くの日向市には、「美々津/耳川河口」という場所もある(しかも、そこには「神武東征」に関わる伝承・行事があるという!)!「ミミ」という名称に注目すれば、神武の、日向での長子「多研耳」、近畿大和での長子「神八井耳」、次子「神津名川耳(経津美皇)」、また、阿蘇や高千穂に伝わる「彦八井耳」等の名前を見れば、「ミミ」耳が、南部九州(日向)に関わる名称であることが分かる!!ちなみに、丹後にいたとされる土蜘蛛の「陸耳御登(くがみみのみかき)」にも、何故か思えば馳せるところでもある!!

いずれにしても、「耳/ミミ」という名前が、南部九州(日向)とつながることだけは確かなようであり、古代日向国が、我が国の古代史(建國史)の解明の大きな鍵を握っていることは間違いない!!ただし、問題は、改めてかの「投馬国」が、ここで言う南部九州(日向)の地にあった国なのか?どうかは、今のところ何とも言えないということである!「邪馬台国連合」の強大な「国」であったことは、その人口規模からも明確であるが、筑紫笠野にあったと考えられる「邪馬台国」とは、一体どうい関係なのか?そして、そもそも、これらの位置関係に齟齬はないのか?そういうことが、新たな課題となるわけである!(つづく)

〈編集後記〉とうとう、沖縄も、本当の梅雨入りとなった!だが、事前に「走り」があったので、さほど憂鬱ではない!!しかも、晴れ間もある!ただ、これからの不安ではある?いずれにしても、季節はあり、そして巡る!楽しいことも、苦しいことも(時には哀しいことも!)、その繰り返しの中にある!!

(堂本)

(井上/堂本)

「岳陽」と共に

第 29 号

発行日
2024.6.15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「ハラハラ」にかこつけて？本当は、…？

ある意味、どうでもいいことではあるが(書いたからって事態は変わらない?)、最近では、何でもかんでも「○○ハラ(スメント)」と言つて、日常における様々な行為・関係が、その対象となつている!もちろん、それが、正當かつ適切な言い立て(摘発)であれば問題ないが、それが、単なる人間関係の歪み(薄さ?)を示すものであれば、実は、そちらの方が問題である!!私には、そのようにも思える!!

そんな中、各界のリーダーやヒーロー達のそれも、枚挙に暇はない(それこそ「ハラハラ」のオンパレード?)!二重の意味で嫌気がさすが、しかし、同じ「ハラハラ」でも、スポーツの世界には、まったく別物がある(尤も、同じ○○ハラもあるが!)!勝負を賭けての一進一退の攻防がそれであるが、そこには、選手達の、それこそ人生を賭けた戦いがある!!勝つこともあれば、負けることもあるが、しかし、そんなこととはお構いなしに、今そこに必要な最善かつ最高のプレーに集中している!それが、観るものを魅了するのである!

現在、バレーボールの世界大会(VNL)が繰り広げられているが、今年も大いに楽しませてくれている(特に女子!否、その後男子も!)!相変わらず、国内外の惨劇・悲劇が続く中で、こういう話題を採り上げるのは、誠に申し訳なく、そして気も引けるのであるが、やはり、一生懸命な姿はいい!無条件にいい!だから、そこで頑張っている人達を、絶対に応援(否、賞賛?)したいのである!

このように、ハラハラしながらの直近であるが、しかし別な意味で、絶対に応援(ここでは支援?)しなければいけない人が身近に出た!本当は、それを書きたかったのかも!!

○新たな「似非?旅枕」のネタ探しにもなれば?!

ところで、先々号(27号)で前触れしておいたが、私(達)の、「少し遠出の旅」の一環として、この下旬に、「淡路島」に行くことにした!何故、そこか?と聞かれれば、少し返答に窮するが、とにかく行ける時に、どこでもよいから?行こう!そういうことである!ただし、だからと言つて、何の目的もないということではない!もちろん、私の場合は、当地における遺跡巡りである(三女も台流するので、それも楽しみである!)!

しかるに、淡路島は、「記紀神話」での「国生み」の舞台である!「オノコロ島」と目される「沼島」(ほともかく(觀光地となつている!)、かの「三貴子」(天照大神/月読命/素戔嗚命)の生みの親、伊弉諾/伊弉冉の活躍?の場所でもある(「伊弉諾神宮」も当地にある!)!!伊弉諾勢力(天津神/天孫・天神系)と伊弉冉勢力(国津神/在地・出雲系?)が、そこで出会い、糾合したことを暗喩しているとも言えるが、ともかく、古代史解明の重要な地域(の一つ)であること間違いない(なお、最近では隣の「阿波(徳島県)」が注目され始めてもいる!!)!

ということでは、他ならぬ私にとっては、この誌面に掲載している、「特別コーナー」堂本彰夫の古民史旅枕「(似非?旅枕)」の、新たなネタ探しにもなればというのである!!その一つが、「五斗長垣内(ごとうながきい)遺跡」であるが、そこは、弥生時代後期の鉄器生産工房らしいが(もう一つある!)、この事実は、とてつもなく大きい!7月は、福岡にも行くが、その成果(南西部の神社等巡り)も、是非見せたいものである!!

○「教育協働アカデミー(仮称)」の胎動?!

昨日(5日)、標記「アカデミー(仮称)」の創設(かなり仰々しいが?)に向けての、3回目の集まり(Zoom交流)をもった!私自身は、玉城青少年の家へ移動して、その集まりを主宰(私のアカウントで行っているということ!)したが、今後も、毎月1回(第一水曜日10時~12時)のペースで、集まり(Zoom交流)を持つことになつている!「思いのある人」、そして、「都合がづく人」に、是非参加してもらいたいということである!

なお、10月には、長野県への視察旅行?(秦阜村在グリーンウッド自然体験教育センター等)も実現しそうである!3月に行つたセミナー(玉城青少年の家との共催による「事例発表セミナー」)での縁によるものであるが、今後は、現在の顔ぶれを核としながら(中心は4人?)、可能な限りの参加者・協力者を募り、「教育協働」のネットワークづくり(社会教育主事(有資格者)/社会教育士の活躍の場づくり)、そのための人材養成を企図したいと思つている次第である!

ただし、何度も言うように、この働きかけ(お節介?)は、おそらく私の最後のそれであり、真にそれに応えたい、否、応えなければいけないという思い(信念、否、ミッション?)をもつた人達への、ファイナルラブコール(ある種の遺言?)だということである?だから、単なるお付き合い(腐れ縁?)や一時的、あるいは一方的な参加者・利用者(消費者?)は、まったく不要だということでもある!とにかく、私は今、ここ(沖縄)で、そして、私の言う「思いのある人」として頑張っている人達(年齢的には、決して若くはないが?)に、私なりの、最後の受け渡し(ある種のバトンタッチ?)を行いたいのである!

とは言え、彼らを取り巻く諸状況は、決して楽観できるものではない!だから、この私のファイナルラブコールも、ある意味、彼らにとっては重荷?否、現実は、そうしたことは構つていない?眼前の課題のことで精いっぱい!!もちろん、そんなことは分かっているが(ただし、十分には分かっていないかもしれない?)、要は、それだからこそ、互いの思いと力(実績)を、もうちょっとだけ「合力」すれば!そういうことである!(井上)

○リーダーのやる気と本気―そしてそこに、それに応えた人達がいた！

さて、ここでも、ある意味表面の記事と関係するが、先日、懐かしい情報（光景）に遭遇した！それは、「隠岐島に希望を取り戻せ―破綻寸前からの総力戦―」というNHKの番組であった（初回放送日：5月25日）！この島（町）については、以前、当時の大学院生日君の研究テーマの関係で、直接、同君と一緒に訪れたこともあり、少なからず知っていた！そして、同島（町）に関する情報も、多々得ていた（Y町長やIさんの本等から）！ちなみに、同番組については、次のようなコメントがあった。

「町の人口が急激に減っていく。今から20年前、島根の離島・海士町は、深刻な過疎に直面した。返済のめどが立たない102億円の借金も抱え、町の財政は破綻寸前。そのとき、『島の未来を守ろう』と立ち上がったのは、元営業マンの町長。自ら給与をカットし、改革に乗り出した。その思いに役場職員と町民が続いた。地元の高校をよみがえらせ、新たな産業を生み出し、活気を取り戻した。島の存続を賭けた、総力戦での逆転劇。」

もちろん、これだけでは、なかなか実際のイメージが掴めないかもしれないが、本当に凄いが、そして、ある意味では羨ましい話である！これ以上の詳しいことは、ここでは書けないが（まだまだ知らないこともある）、この島（町）の取り組みには、教えられることが無数にある！その後、直接の交流や情報もなく、かなりの年数が経ってしまったが、今回の放送で、改めて同島（町）の凄さ（懐かしさ）を感じさせてもらった次第である！

とにかく、「そこに、やる気と本気の『リーダー』がいた！そして、『それに応えた人達』がいた！」まさに、そういうことである！人の思いに触れ、ある人達が呼応し、そして、周囲の人達も変わっていく！ある時期の、誰かの苦い経験？を一方で思い起しながら、その素晴らしいさを、改めて感じさせてもらったということである！

○何とも悩ましい「祭神」の乱立、否、滅裂？！
何度も書くようで申し訳ないが、最近、古代史に関するブログやYouTubeを沢山見ている！そして、様々な有用な情報を得ている！ひょっとしたら、このようなところから、真相解明の突破口が開き始めるかもしれない？そんなことさえ思う次第であるが、だが、ここに来て、何とも悩ましい問題も感じ始めている！それは、ここに出てくる「神」のことであるが、その名前、そして、鎮座場所！！

一言でいえば、「乱立、否、滅裂？」ということでもあがるが（使用字や読みの問題も、もちろんある！そしてそれが多くの人を遠ざけている？）、そこには、明らかに社名や祭神名の変更、すり替えや秘匿があるということでもある！！

実は、その原因を探し出していくことが、他ならぬ「古代史解明」の一助ともなるわけであるが、そんな中、例祭等を実施し、敬虔に、その「神」を祀っている人々がいる！他方、私を含めて、普通の人々は、結婚式や初詣、他の区切りの行事（七五三等）等で、お世話になるだけである！！
〈短歌に託して師走！こうして今年も過ぎていく！〉

疾駆く人 師と仰ぐは 少し変？

ただ見せられし姿 しかと収むる！

・さりげない 時代の告発者？

だがすべての世代に 優しき伴走者でも？！

・50過ぎの壮年達 人となりは 変わらじも

見た目は それとは裏腹に？！

・エジプトよ いいところ取りは ほどほどに！

同じ過ち？ 決して繰り返すまじ！

・古人よ 何故に設けし 神の社！

名前は滅裂？ そこに何ある？

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕⑧
○「大幡主命」が「旧倭国」、「開花天皇」が「新倭国」？！
そこで、ここでは大変な妄想となるかもしれないが（だが真実）、思い切つて、かの「大幡主命」が「旧倭国」、「開花天皇」が「新倭国」の勢力というように捉えてみると、どのようなものか？そこについて、少し考えてみたい！なお、前者は、博多湾沿岸（中心地は須玖岡本）に覇を有していた「鵜族」、後者は、背振山南麓―高良大社周辺―に集結していた新興勢力（天伽耶多羅勢力十狗奴國）鵜族と神功皇后・息長氏十武内宿禰諸族であった！ただし、その後者の勢力については、もう少し複雑な様相があったとも思われる（とりわけ、そこにおける「酒君氏の存在」）！！

とは言え、そこら辺りの言及は、今後のさらなる課題ということであらざるを得ないが、ここにおいては、取り敢えず、博多湾沿岸部の「旧倭国」の中心勢力（全盛）が、その内陸部、視点を変えれば有明海沿岸部の新興勢力に追いやられ（鴨族とともに東へ移動？いずれも「海神族」）、それが引き金（「源流」）となって、西日本全体の諸部族・勢力の大々的な攻防、すなわち「倭国大乱」と呼ばれるものになっていった！！

そして、その過程において、北部九州では、「魏志」に言う「邪馬台国」の出現、魏倭王「卑弥呼」の登場、さらには「吾与（吾志）」への継承がなされるわけであるが、その後の顛末（新倭国「邪馬台国」連合の解体）については、ほとんど闇の中（9世紀末まで）という扱配なのである！要は、そのことについては、例の「記紀」は何も記していない！と言ふよりは、かの「神話」として、その顛末を暗示させている？そういうことである！！

いずれにしても、そういう中で、現在も、「大幡主命（大幡主命）建瓴安彦」として、「開化天皇（高良大神）」を祀る神社や、彼らに纏わる伝承が、そこ北部九州に色濃くあるということは事実であり、ここではっきりとしていることは、ある時期から北部九州（倭国）が二つに分かれ、その二つの勢力が、北部九州と近畿（天和・河内）双方を舞台として、その後の「倭国」日本国を形づくっていった！少なくとも、そのことだけは言えるということである！（つづく）

〈編集後記〉ということ、今年、これで終わりである！来る「辰年」はいかなる年となるのか？一応は、7回目？の「年男」ではあるが、これまで同様の日々が続く！ただ、かの心配（憤り）は、決して同様であつて欲しくない！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 30 号

発行日
2024. 6. 30
編集・発行
井上講四/堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○本当の「自分史」(告白?)も、もう少し必要!!

さて、ある意味では突然であるが、折角の節目ではあるの(第30号)、ここで少しだけ、これまでの新通信作成について(反省?)を語っておきたい!わざわざ「あくまでも自分史として」という、それなりに意味深な副題(恰好?)をつけておきながら、それらしきものは、あまり見せていない!!もちろん、関連記事の折々に、それと合わせるようなものはあることはあるが、それらが、本当に「自分史」と言えるのかといったら、それはそれで、かなり怪しい?

○折角のズームアカウントが泣いている!!

上記に、多少書き加えておきたいことがある!それは、私自身が、しつこい(諦めが悪い?)ということである(我が奥さんからも、よく言われること!)!!その証左の一つが、ズームアカウントの保持である(持たなくても、まったく支障はないし、参加しようと思えば、いつでも参加できる!)!折角取得しているのに、それがほとんど活用されないというところもあるが、何故か、放棄できないのである(先日更新もした!多少値上がりしていた!)!

ということであるが、やはり、まだまだ書いてはいない(否、だぞ!)ということを示している(事あること)に引退表明?しているにも拘らず!、それが、ほとんど空回りしている!!そのようにも思うが、要は、私を取り囲む状況(時代)が変わってしまった!!私が欲する人間関係(認めたくない?)ものということである!!もちろん、個別や情報のやり取りが、最早時代遅れ(時代錯誤?)になったりなのでもある(まるでドン・キホーテか?)!

ちなみに、それについては、以前、どこかに書いたように、もちろん、本人が必要だと思うものでなければ、なかなか思うが、私自身は、実はい、初心者!そして、結局は、うまくいかない人、そういうようにも思っている!しかも、そこに、九州人(否、唐津人?)の悪い癖(恰好?)いい人ぶっている?一見豪放磊落のように振舞っている?)が被さっている!!

だが、いずれにしても、様々なことがあった!思い出せば、でも成功(持続)させたい!それが、しつこい(諦めが悪い?)私の願いでもあり、意地でもあるわけである!!

○淡路島行!細やかな(恵まれた?)日常の「コマ」として!!

予定していた、夫婦での淡路島への「ささやかな旅」(21~24日)から、昨日戻った。多少気がかりなことがあったが(二つ)なお、一方のそれについては、そのための準備もして!、折角の計画でもあったので強行した次第である!結果的には、何事もなく、そして、梅雨入りした当地への訪問も、ほとんど影響はなく、快適に過ごさせてもらった!岡山に住む三女の同行(半分は、車の運転手?)もあって、久しぶりに楽しい時間であった!旅行を計画してくれた我が奥さんには、本当に感謝である!

それにしても、淡路島は、本当に広いものである。今回の旅は、その淡路島の北から南まで(正確には大鳴門橋の徳島県側まで。残念ながら、潮の関係で、大渦は見られなかったが!)、しかも、播磨灘(大阪湾)と瀬戸内海の両方を見ながら、名所旧跡を訪ねた(一般の人は行かない所まで?五斗長垣内(こさかい)遺跡や倭大國魂神社等)。もちろん、多くの人が訪れるだろう、伊弉諾神宮や各種花の公園(幾つか行ったが、名前は覚えていない)笑、そして、「たこせんべいの里」にも行った(奥さんと三女は喜んでた!)!お世話になった二つのホテルは、食事等、とても良かった(在福良の二日目のホテルの露天風呂は最高であった!)!

地元在住のF君(大学の同期)夫妻との再会、その奥さんの食事が注文されていなかったハプニングもあったが、互いに、さらに年を取ったものだどつくづく思った(F君とは、7年前に広島で再会していた!ちなみに、ハプニングと言えば、初日の神戸三宮での泊の時、摩耶山からの帰りのバスで、反対方向の路線に乗り、かなりの遠回りをしたこと(二時はどうなることか思っただ!)、帰りの高速バスで、我が奥さんが、間違ってチャージしてないICカードを出して、料金不足で、現金を払ったこと(先に降りていた私は、何が起きているのか、その時は知らなかった!)

思い出せば、まだまだ書きたいことはあるが(神戸の夜景、淡路島の玉ねぎ、シラス井のこと等)、今回の旅は、あくまでも、私達老夫婦?の、今の生活(いつまで続くかわからない?)の一部、細やかな日常の「コマ」として実現させたい!そういう恵まれた?高齢者の旅でもあったということである!(井上)

○フロンティア―それは、いつの時代にもある?!

もう随分経つが、過日、「フロンティア」というNHK番組を観た。「ぜんぶ見せます! AIと、AIについてガチ対談!」ということであつたが、何とも奇妙なものであつた! AIは、ついにここまで来たのかというこゝとであるが、実は、この番組は、「NHKのBSチャンネルが12月にリニューアルされた。新チャンネルの目玉として企画されたが様々な分野で知の最前線を巡るこのシリーズ。当然、力が入っている。最初のテーマは『日本人とは何者なのか』とあつた(これも確か観た)。

「番組には、科学、宇宙、そして歴史や文化といったさまざまな分野で、未知の領域『フロンティア』を切りひらいているフロントランナー(専門家など)の方々が登場し、彼らにしか見えていない一歩先の新しい世界を語ってくださいます。そうしたフロンティアから見える新しい世界観を映像化する際に、表現の世界のフロントランナーであるオダギリジョーさんと蒼井優さんの感性を掛け合わせてお伝えしたいと思ひました。ぜひ、作り手」として参加していただきたいと、オフアをさせていただきますました。そんなお二人に語りをしていただくわけですから、『これまでと同じではない伝え方』『テーマにあつた語り口』を内容に合わせて考えながら制作しています。毎回ちよつとずつ違つた語り口になっていますので、その点も楽しんでいただきたいと思ひます。」(白川裕之チーフプロデューサー談 とある。

今回は、「進化が止まらない人工知能・AI。その最前線について。AI「本人」はどう感じているのか? フロンティア取材班は、はるばるイギリスへ! 最新のAIテクノロジを駆使して開発されたヒューマノイドロボット「Ameca(アメカ)」に、「ガチンコインタビュー」を申し込みました。」ともある。いずれにしても、ほとんどの番組を観ていないことに気づかされた私であるが、本当に世界は動いて(変わつて)いるのである!

○そこには、勝負するもの(場や形)がある?!

しかるに、上記も含めて、今、改めて思ふことは、人の人生において、何らかの「勝負するもの(場や形)」がある人とするでない人の違いは、大きいということである! 現在、そうしたものが、ほとんど消え失せている我々(高齢者)にとっては、まさにそれが実感のもののである! こんなことを書くと、また誰かに自虐ネタ(年寄りの僻み?)に走つていると言われるかもしれないが、先の「プロジェクトX」に登場した人々や最先端のスポーツ選手・チームには(こちらは、たまたま見たネット情報、まさにそれがあるのである(だから、感動を与えるのもあるが!))!!

とは言え、それが、ある種の「生き甲斐・やり甲斐」ということであれば、我々(高齢者)にも、敷衍される(ただし、それは、ここで言う「勝負」ではない!)!!だが、ここで言いたいのは、それを超えた、何らかの重たい課題(普通の人では解決することが出来ない)を担っている人達のことである! だし、それが出来るのも、そこに「場や形」がある(否、創れた)からである!そこが何とも羨ましい!!

「短歌に託して」今回は、何故か「何故」に収斂する! 「あくまでも自分史として」 そんな副題
何故入れる? そこにあるのは、やはり恰好?
ズームアカウント ほとんど不要と思つても
それでも持つは 何故をどうぞ?
淡路島 国生み神話は 嘘じゃない?
されど何故をどうぞ? そこに行つたのか!

・フロンティア 何故にかくも多々ある!
だが何故をどうぞ? 無縁の我が見る?
・勝負するもの そこには場や形がある!
だが何故をどうぞ? それは、そこにある?!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史探枕 ㊦

○改めて、古代九州の全体像を探る―その1―
というこゝで、改めての課題は、北部九州での、神功皇后(皇太后)や武内宿禰の謎(彼らは、近畿から動いてきた上になつてゐる)の解明である(もちろん皇太后(佳皇太后)を含む!)。例へば、別な情報によると、神功皇后(父親は皇孫宿禰王/開化天皇孫、母親は葛城國額姫/天日矛の子孫)は、背振山南麓に、その縁の痕跡があり(佐賀県唐津市には、彼女を祀る「野波神社」とその父母を祀る「下宮神社」がある)、武内宿禰(孝元天皇の孫・屋大弟武雄心命(または、その父の彦太忍信命)と、葛城彦(紀直遠祖)の女の影縁との子とされている)は、その父親? (屋大弟武雄心命武雄心)が、佐賀県武雄市に所縁の人物となつてゐる!そして、武内宿禰は、北部九州(筑後地方)では、「藤大臣(高良玉垂命)とも称され、一方でまた、南部九州では、何と熊襲の英雄? 「弥五郎とん」とも呼ばれてゐる!!

とにかく、その長寿の異常さも含めて(360歳?)、まったくもつて謎(正体不明)の人物と言わざるを得ないのであるが、彼はまた、「波多氏」「平群氏」「巨勢氏」「木(起)氏」「蘇我氏」、そして「葛城氏」等、いわゆる「葛城諸族」の祖ということにもなつてゐるのである! 通説によると、武内宿禰は、主君の神功皇后に常に寄り添つて、その忠告を果したといふことであるが(そのため、戦前には我が国の幣幣にも譽を出してゐる)、とてもじゃないが、このままでは、謎の人物(非存在)ということでも終わつてしまふ(うやむやにされる)!!

おまけに、墓所は、大和の「聖宮山古墳」ともされるが、因幡(鳥取市)の「宇倍神社」とも言われる(伊福部氏の関わりか? 彼らは、かつて筑後川流域にいた!)!! いわゆる「職掌」、あるいは「複数の人物(モデル)」の重ねといふことであるが、個人としてではなく、その勢力、血統という視点でみれば(現代も、その未審と称する人達がいる)本音がどうかは、知る由もないが、そこにある真実、そして、それが有している古代史解明の鍵が、おそろしく(否、絶対的に)見つけられるかもしれない!! (つづく)

〈編集後記〉とにかく、そうこつしてゐる内に、沖繩は、梅雨明け! 他方で、次は、本土の梅雨入り! 離れているから? 否、繋がっているから? まるで、それは、沖繩(の人)の心情のよう!! それとはともかく、梅雨明けの沖繩は暑い! 普通の年より2度くらい高い? 盛夏ともなれば、想像するだけでも怖い? (井上/堂本)

「岳陽」と共に

第 31 号

発行日 2024. 7. 15
編集・発行 井上講四／堂本彰夫
※連絡先 〒901-2225 沖縄県宜野湾市 大謝名 3-13-24 教育協働研究所 ~岳陽舎~ (井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail: gakuyou17@outlook.jp

○最終的にAIは人類を滅ぼすのか？人工知能研究者が導き出した「意外な答え」今後も生き残るのはどんな仕事か？

この話題については、あまり深掘り出来ない私であるが、人間とAIの関係の結末？は、興味あるところではある！ ネット情報によると、次のようなことが書かれていた。

「現時点でAIが学習しているのは、主としてインターネット上のテキストデータ。もしもAIがたいの文章を人間よりも正確に、効率よく書いてくれるようになるのであれば、人間によって作られる文章自体が減っていくことは避けられない。著作権保護の問題は残るが」。しかし、当然、品質は下がっていく。生成AIに条件を与え、新聞記事のような文章を生成してもらうことはできても、世の中のどこに記事にしたいような取材対象があるのかを探ったり、そこに実際に向いて人の話を聞いたり状況を調査したりすることは、結局、記者にしかできない(記事をベースに文章を書き換えることは技術上でも、そこで生成された記事をさらに学習して...)というサイクルにはまり込んでしまうと、事実や知りた内容からほとんど離れてしまう...こうした状況を利用して、意図的に間違った情報や、特定の勢力に有利な情報を粉砕させることもやりやすくなる。」

したがって、「人の手による価値あるコンテンツ」の重要性が、再び増していく。私たちがAIに期待するのは「人が作ったかのような成果物」。そのためには、人がどんなデータや文章を好むのかを、定期的に検証しなければならない。人による「品質チェック」は、必ず残るニーズ。今後も生き残る仕事、あるいはクオリティは、AIに学習される価値のあるもの。価値を作り出せるのは人間。AIが人間を滅ぼすことはないはず」とある！何故か、安心した次第でもあるが、では、その価値は、誰が、どのように生み出すのであろうか!!

○人間の価値は、アルファベットで示されるのか？

かつて「I型人間」のことがもてはやされた時期があったように思うが、次のようなネット記事があった！「『I型人材』とは、特定の分野を極め、専門的な知識や経験とスキルを蓄積し、これらを軸にして、その他の幅広いジャンルに対しても知見を持っている。英語で『T』の文字の縦を「専門性」、横を「視野の広さ」に見立て、...そして、『II型人材』は、異なる分野の2つ以上の専門的な知識を極めた人材で、『ダブルメジャー』とも：専門性が高い分野の深い知識を複数持つことで、ひとりで独創的な発想をすることができるとが特徴」とある。

また、『H型人材』は、強い専門性を誇る分野が1つあり、他人の専門性を横軸で繋げられる架け橋となる人材。このような他者との連携をする力も、今後求められる人材の重要なポイント。『I型人材』は、従来の日本企業が重用した、1つの専門ジャンルを極めた人材のこと。特に技術職に多く、営業や企画など異動の多い職種では少ない。...ともある。

いずれにしても、「専門性」と「視野の広さ(教養?)」、そして、「他者と連携する力」が、これから求められる人材の力(理想)であることは間違いない！余計なことだが、これらが、現在主張されている「多様性(個性の尊重?)」と、どのように結びつくのか？そしてまた、ネット社会で脚光を浴びて来た「インフルエンサー」や「アンドロイド」「サイボーグ」等の人材？は、これらに如何に絡まるのか？未来は、複雑である!!

○ドキドキ、ハラハラだったが、面白かった？この一月半！

過日、バレーボールのネーションズリーグが終了した！約一月半に亘る大会において、今回は、男女とも銀メダルという快挙(奇跡?)をなした！そして、来る月末のパリオリンピックへのアベック出場(古臭い言い方)となった！リアルタイムの放送では、それこそ手に汗握る観戦となったが、試合結果はもちろんであるが、そのプレーの素晴らしさ(テクロバットにも似た?)に、いたく感動した次第である(これまでの日本とは、まさしく違っていた!)！何故、こうも変わったのか？選手もコーチ(監督)も、基本的には変わっていないにも拘らずである!!個々の選手の力量が上がったと言わざるを得ないのであるが(特に古賀選手)、これについて、私は、昨年の女子世界バレーボール選手権(オリンピック代表予選)に關わって、次のような感想を述べている(第14号)！

○非情な(解せない)采配？そこは何かあったのか？随分日が経ってしまったが、日本は、結局ブラジルにも負け、残念ながら、今回での代表決定には至らなかった！そして、そこにおいて、最後の二セットは、これまで中心選手(主将でもあった!)として奮闘してきた古賀紗理奈選手の姿がなかった...！何か、第3セットの終了時点でトラブルがあったものかと、その時は思うだけであったが、試合終了後のインタビューでは、自分自身は、調子は悪くなかった！その理由(不起用)については、監督に聞いてくれというようなコメントであった！問題は、その後の、真鍋監督の言である(決定率、効果率、返球率が下がっており、ある意味交代は、理の当然だ!)。これは、下衆の勘繰りかもしれないが、今回の成績(実力?)でも明らかのように、たとえ今回の機会でも出場権をとったとしても、今(まで)の古賀選手(中心のチーム)であれば、おそらくメダル獲得は困難!!監督は、そう思っていたの采配ではなかったのかということである!!そこで注目されるのが、その非情な(解せない)扱いを受けた古賀選手の、これからの踏ん張りである!!試合後の涙もなかったが(采配への怒り?負けを情けなく)、とにかくその悔(とどろ)のように晴らすのか?そこが重要であるということであり、それがまた、監督の本当の思いなのかもしれない!!

ある意味、私の読み(予感?)は当たっていたということであるが、その悔しさと努力の積み重ねは、他の選手にも、当然あったということである！何という素敵な時空であったのか！(井上)

○知らなかった！そして、何故か、心を打たれた！

6月23日、「慰霊の日」！その日は、沖縄では、ある意味最も忘れられない（忘れてはいけない！）日である。79年前、かの戦争において、沖縄が地上戦の舞台となり、事実上終戦を迎えた日である！だが、最近の私は、その日のことを、あまり頓着しなくなっている！詳しいこと（思）は、ここでは書けないが、この度のテレビ放送を見て、何故か、心を打たれた！まったく知らなかったということもあるが、そこに示されている真実（人間の生き様が、本当に尊いものに思えたからである！）

そこで、改めて、そのテレビ放送であるが、それは、最近復活したNHKの「新プロジェクトX」の、「旧作アンコール 命の離島へ 母たちの果てなき戦い」というものであった（初回放送日：6月29日）。2005年5月の放送ということであったが、「終戦後、沖縄では水道施設が壊滅。川の水を生活用水にすると感染症がまん延した。医師は軍医に駆り出されて亡くなり、極度に不足した。窮状に立ち上がったのは100人以上の女性たち。現在の保健師にあたる『公衆衛生看護婦』となり、各離島で島民の命を守る。結核の疑いがあっても「周囲に知れると困る」と追い返されるが島民に誠実に向きあい、信頼を得ていく。79回目の沖縄慰霊の日を迎え、女性たちの奮闘秘話をアンコール。」とある。

病气や生苦に困っている人達を救いたい！「誠実」という言葉に込めた、彼女達の使命感と生き様。それが、背中で見ている子ども達には伝わっていた（その時は本当に辛かったであろうが！）！今の教育界に、何かを訴えている？ちなみに、当時のスタジオに登場していた親子、子の人物は、私と同じ大学のN教授であった！顔を合わせたこともある！気弱そうな人に見えていたが、その親子の生き様を知った今、それは、かれの優しさとなっていたということでもあろう！驚きもしたが、土地や人間の評価は、表面的ではないということでもある！！

○「若い」の思い込みとは恐ろしいもの！！

別コーナー（「新・教育協働への道 26」）でも書いたが、この度、大変な間違いをしましてしまった！法律条文（教育基本法）中の「国家及び社会」という表記が、2006年の改正から、そうだったという説明をしていたが、実は、最初からそうだったということである！法改正期の状況に関わる変な先入観（当時の首相のゴリ押しに対する？）が、そうさせたとも言えるかもしれないが、大失態であることは言うまでもない（専門家失格！いくらこの論稿が学術論文ではないとは言え、決してあつてはならないミス！）

ただし、文意は、基本的には変わらず、つまり「：国家及び社会の形成者：の育成」というところについては、常に緊張感をもって（「正当に」と言いたいところであるが）解釈していかなければならないということである！ちなみに、真に凶々しいとは思いますが、そのお詫び・訂正あるいは差し替え版は考えていない否、実際行えない？！ここでこの言及で、そのことは許してもらおうしかない（これは、老いたる専門家の、ある種の「誠実」ということでもある！！）

- ・短歌に託して！今回は、「誠実」を前面にして！！
- ・価値あるもの それは、人間が生み出す！
だがそこには 「誠実さ」が必要！！
- ・求められる人材像 そこに「誠実さ」
いかにある？ それを問わなければ！！
- ・何故か当たっていた？ でもそれは上辺の話？
そこにあるのは 努力と「誠実」！！
- ・本当に心打たれた！ それは何故？
答えは多分 真の「誠実さ」にある！！
- ・「若い」たる故の 思い込み！！
失態だが、そこにはある種の「誠実さ」あり！！

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕⑨〇〇

○改めて、古代九州の全体像を探る―その2―
先号⑧では、北部九州での、神功皇后（皇長尾姫）や武内宿禰の謎の解明が必要であることを述べたが、それにしても、その課題は、とてつもなく大きく、しかも複雑怪奇である！しかし、そこに、一筋の光明がないわけではない！それが、実は、「古代九州の全体像を探る」ということである！本「旅枕」は、期せずして（偶然にも）、そのような軌跡を辿ることにもなっているわけであるが、要は、中南部九州の諸勢力と北部九州の諸勢力（新たに加わった半島經由の新渡来系の勢力も含めた）の集散離合の歴史が、その後の我が国の古代史（縄直史）を形づくったということである！！したがって、記紀神話に言う、瓊瓊杵尊の天孫降臨／阿多の勢力（軍人）との出会い、初代神武天皇の日向からの東征説話等は、全くの荒唐無稽とは言えなくなるのである！！

しかるに、「記紀」は、後世において（8世紀前後）、その時の為政者（権力者）達が、中心人物は、藤原不比等（持統天皇）、自らの正統性・正当性を主張（確立）すべく、そして、都合の悪い史実は、神話等（うやむや）にして我が国の建国史を描いた（捏造・創作）ということであるが、この文脈からすれば、それらは、彼らが依って立つ、近畿の「大和政権（朝廷）」から捉えた歴史（創作物語）であったということでもある！だから、その本家本元であった北部九州の実体／実態（九州倭国）、そして、おそらくその実体／実態の一翼を担っていた（否、近畿倭国にあつては、その力の要素が強かった）中南部九州勢力（狗奴国）等の真相を隠した！！そして、彼らを蛮族の熊襲（球磨島）として蔑視、あるいはその存在を闇に葬ってしまった！！だが、一方で、その中南部九州のことを、間接的に意識させようとした！！そのように思われるのである！！

とにかく、その攻防の地（中心地）が、ある時期、筑後の高良山周辺であったことは間違いない（その痕跡／象徴が、まさに「高良大社」）、そこを追求していくことが、目下の目標ということになる！（つづく）（堂本）
〈編集後記〉本日（15日）、東の間の旅から戻りました（これについては、次号にて！）！梅雨の福岡から、真夏（灼熱）の沖縄へ！それにしても、沖縄は暑い！改めて、これから、どんな日々となるのか？いろいろなことがあることと思えますが、それなりに頑張っていきます。（井上／堂本）

「岳陽」と共に

第 32 号

発行日 2024. 7. 30
 編集・発行 井上講四／堂本彰夫
 ※連絡先 〒901-2225 沖縄県宜野湾市 大謝名 3-13-24 教育協働研究所 ~岳陽舎~ (井上講四宅)
 Tel:098-963-9282
 E-mail: gakyuou17@outlook.jp

○何とどういふのだ！今は、「こんなことも実現させる！」

過日、とんでもない歌い手 (A d o) の存在を知った！そして、彼女が、昨年のNHK紅白に出演していたことも思い出した！あの林修氏がMCを務めるテレビ番組(録画)を見てであったが、私達の世代からすれば、その存在(の状態)活躍ぶり(日本ばかりではなく、世界からも熱狂的な支持を受けているようである)は、ほとんど信じられないものである！

ところで、その楽曲や歌い手の魅力はともかく、この、直接の姿を見せないボーカロイド？ということについては、ほとんど分からぬ私であるが、私が興味をもったのは、彼女の育ちやキャラであり、しかもそれが、まさに、今現在のネット社会によって生み出されたものという点に對してである！古典的な言い方とはなるが、人間は、環境によって、どのような存在にもなれる(創られる)ということである！

下手な教育論をここで出すつもりはないが、最早全世界を瞬時のうちに繋げるネット社会の光と影のクロスオーバーの中で、こうした若者(ある種のスター?)が出て来たことは、最早それが所与のものであり、社会(この場合は教育界?)は、それから目を背けることは出来ないということである(今回の都知事選での1候補のこともそうであるが?)！

なお、その後、その彼女の顔、バレーがあったであろう！「3枚の写真が公開され、その理由はまだ謎に包まれている。」「とあるが、引きこもる若者達の中で(彼女もそうであったらしい)、自らの思いや生き方を、自宅のクローゼットの中で、ICTの活用(楽曲づくり)によって実現させた！現在、「その彼女の顔に対する興味や関心が高まっている！」とあるが、そこはあまり突っ込まない方がよい!!

○幻の神社巡り？それだけは、雨に阻止された！
 過日(13日~15日)、久し振りに福岡を訪ねた！名目(表向きの旅の目的?)は、高校時代のミニ同期会(福岡在住の人達による)に参加(闖入?)させてもらうことであつたが(ちなみに2回目)、これから先、いつ行けなくなるか分からない中で、そして、繰り返し怠惰な老いの日常?を、多少なりとも打破?するために、外泊を伴う遠出(海を渡る?ちよっとオーバーか?)をしたかったというところでもある(ついでに神社巡りも!)!!

案内を受けた会場(博多駅近く)には、簡単に着けるだろうと、高をくくっていた私であるが(今回は、スマホデビューもしていた)、やはり着けなかつた(マップが読めない!)！結局、今回も、私と同じように県外(千葉から参加していたY君と、博多駅まで戻って合流し、何とか間に合つたのであるが、何とも都会は分かりづらいものである(年寄りの悲哀とは、まさにこれ!)！

当日(13日)は、かの「祇園山笠まつり」の初日でもあつたが、夕方の会には余裕があつたので、今回もまたお世話になる次女のマンションに先に行き(ただし、彼女は、事情があつて不在)、その後、まつり会場の櫛田神社/川端通りまで行き(そこでラーメンを食つた!)、束の間のまつり気分を味わつたのはよかつたが、その後の結末は、先の通りなのである！

なお、次の日は、別途密かに楽しみにしていた、福岡県南部の神社巡りの予定であつたが、生憎の雨天のために、中止を余儀なくされた！付き合ってくれた3人の同志?(天神でランチ)には感謝しつつ、次回を期したい！

○予期せぬ、次女の一時帰郷?複雑だつたが、楽しかつた！

上記とも関係するが、昨日(24日)、予期せぬ帰郷?ということ、2週間余、我が家に滞在していた次女が、福岡に戻つていった。その滞在の理由については、ここでは直接書けないが、先にも書いたように、私の福岡での宿泊(次女不在の二泊)は、誠に奇妙なものともなつたわけである！幸いにも、合鍵があつたので、泊まることは出来たが、娘不在の家に、父親が独り寝泊まりするなんて、あまりあることではない!!

貴重な体験と言へば、まさにそうなのであるが、それにしても、人生とは、いつ、何時、どんなことが起こるのか分からないものである(特に病氣は?)！これもまた、彼女の長い人生の一ページであるので(かなり長くはなっているが)、温かく見守っていく他ないが、とにかく、これから(も?)、元気に、そして、納得のいく人生を送つて欲しいものである！

ということ、そんなこんなの日々ではあつたが、私にとつては、久し振りの(20年以上も前!)、だが、終わつてみれば、あつという間の、我が娘(次女)との同居生活は、何とも懐かしいもので、心情的には、それなりに複雑ではあつたが、とても楽しいものでもあつた！そして、何故か、元氣ももつた！その証左は、何と言つても、それぞれ古くなつていた家電製品(テレビ・ブルーレイ・サーキュレーター、そしてエアコン!)を、ことごとく買い替へたことであるが、彼女の滞在と帯同がなかつたならば、それほどの買い物はしなかつたであろう!!

彼女のもつ知識と組み立て技術が、大いに手助けとなつたというところもあるが、つくづく親(老親?)と言うものは、いつまでも経つても、子との買い物は、嬉しいものであり、元氣が出るものである!!否、私自身は、そういうこともなく(我が奥さんの方が詳しい)、任せていたということもあるが、その買い替えのプロセス(時間の流れ)自体が、昔を思い出すようで、懐かしかつたということである(かなりの出費ではあつたが?)!!

だが、そういう時間も、いつの間にか過ぎ去つてしまつた！時は、否が応でも流れていく！とは言え、もうじき、新たな流れが始まる！ただし、その繰り返しではあるが...(井上)

○「現在」は、「過去」の結果、「未来」の原因である！

さて、私堂本としては、表面の記事を見ながら、ここで、何とも怪しげな物言いともなるが（しかし、誰しもがそのようなことを思いながら生きていく）、それに呼応しておきたい！やや忙しい、否、通常の、まさにありきたりの生活から少し抜け出すことが出来た、ここ一月ばかりの状況の中で、自らの「現在」を、標記のように思ってみたいということである！

細やかな旅先選びや、家族や知己との再会、そういうことも含めて、「現在」は、「過去」の結果であり、それがまた、「未来」の原因ともなるということであるが（一番強く思うのは、国家間の争いや、選挙時の、各候補者（政党の言動ではあるが）、それは、自らが生み出してきた「生の現実」なのである！人との出会い、再会、新しい場所への訪問、そして、何よりも、目まぐるしく動く周囲の状況が、そうしたことを思わせるのであろうが、「その時」を生きていくことは、まさに、その時代にある自らの「現在」を生きていくことなのである！

そして、その「現在」は、すべて己が関わる、否、所属する社会や国家が、そして、そこで生きて来た先人達（親を言む）が、幾多の喜怒哀楽を伴って、苦勞して作り上げてきた「過去」の結果であり、そしてまた、それが、これからの「未来」の原因となるということである！言うなれば、その時々を生きていく人間（我々）は、その「過去」と「未来」の交差点に生きていくということであり、その交差点自体からは逃れられないということでもある！だが、その交差点の意味や風景は、常に変えられるものであり、決して不動のものではない！否、考えようによつては、自らの納得によつて、いつでも自分のものになるというのである！問題は、その意味や風景を、自らの思いや行動で変えられるかどうかであるが、そこに、各々の「存在」の価値がある！それは、単に時代（他人）から与えられるものではないということでもある！

○暑さ厳しき中、今年の夏休みは大てんこ盛り!!

最早、世間の夏休みとは、まったく無縁である私（達）であるが、その余波は、確実にある！それ自体は、誠に喜ばしいのであるが、それに伴う、幾多の多忙（我が奥さんだけが）、そして心配事（台風も含めて！）が頻出する!! 娘達、特に、宮崎にいる長女一家の里帰り？がそれであるが、今年もまた、大挙して（5人が、二波に分かれて！）我が家を襲うことになりそうである！残念ながら、一足早く里帰り（二時帰郷？）した次女とは会えないのであるが、岡山に住む三女も一緒なので、狭い我が家、そして、二階のクーラーの活用能力の問題もあり、大変な日々となる！

そんな中、今年、パリオリンピックもある！バレエボールとサッカーの試合を楽しみにしているが、また、夏の高校野球もある（今回の沖繩代表は、いつもの興南高校！）！さらには、来月の3日には、再び、岡山の大学教授（教子）S君が、沖繩を訪れることになっている（同期のOさんとも会える！）！言わば、今年もまた、てんこ盛り、否、大てんこ盛りの夏休みということでもある！

＜短歌に託して今年も、てんこ盛りの夏休み？＞

・ネット社会の福音か？ こんな若者がいる！

だが壊されるな！ そして自分を見失うな！

・久し振りの福岡行、そして幻の神社巡り？

奇妙な時空であつたが、これもまた生の一環!!

・予期せぬ次女の一時帰郷？

複雑であつたが、楽しきことばかりなり!!

・「現在」は「過去」と「未来」の交差点！

だがその点の価値は、自らにあり！

・夏休み、今度のそれは、大てんこ盛り!!

だが大変なのは、我が奥さんだけ!!

＜特別コーナー＞堂本彰夫の古代史旅枕 ③

○改めて、古代九州の全体像を探る―その3―

ということ、今（から）は、しばらく、かの「高良大社」に関わる情報を整理しようと思うが、まずは、その祭神（全祭神）についてである。ちなみに、高良大社は、福岡県久留米市の高良山にある神社で、式内社名神大社、筑後国一宮。旧社格は国幣大社で、現在は神社本庁の別表神社。古くは高良玉垂命神社、高良玉垂宮などとも呼ばれたとある。古代から筑紫の国魂と仰がれ、筑後一円はもとより、肥前にも有明海に近い地域を中心に篤い信仰圏が見られる。厄年の厄はらい・厄除け開運・延命長寿・現代では交通安全のご利益でも名高い。また芸能の神としての信仰もあるという。そして、高良大社自体が名神大社、筑後国一宮であるほか、本殿に合祀されている豊比咩も神社が名神大社、境外末社の伊勢天照御祖神社が式内小社、味水御井神社が筑後国総社であるとされる。社殿は国の重要文化財に指定されており、神社建築としては九州最大級の大きさである。

さて、問題の祭神であるが、正殿：高良玉垂命（神紋は「榎木瓜」、神使は「鳥」、左殿：八幡大神（神紋は「右三巴」、神使は「鳩」、右殿：住吉大神（神紋は「五七桐」、神使は「鶴」）。この他、本殿内には御客座があり、豊比咩大神が合祀されている。高良玉垂命とは、夫婦との説もある。神階は正四位下。また、御客座には、境内にあつた坂本神社の祭神などが合祀されている。高良玉垂命は、朝廷から正一位を賜っているものの、記紀には登場しておらず、正体が誰であるかに関しては古くから論争があり、武内宿禰（物部保連）説、藤原大臣（中臣鸕鷀原命、藤原大臣保連）月天子、住吉明神の化身、物部氏の遠祖、物部胆咋連、物部保連、物部祖神（饒速日命、物部胆咋連、物部保連）説、彦火々出見尊説、水沼君祖神説等、諸説があるらしい。江戶時代には、武内宿禰に比定する説が主流であつたが、明治以降は、特に比定されていないとも、何とも、不思議な祭神なのである！私自身は今のところ、「開化天皇」が怪しいと思つてはいる!!（つづく）（堂本）

＜編集後記＞気がつけば、あつという間に、夏休み突入！そして、オリンピックも始まつた！それにしても、今年は暑い！これが、これからは当たり前になるのかもしれないが、それに順応していかなければならない！何が、どのように変わっていくのか？気候だけではない！それは確かだが、全貌は、まだまだ、私の現在からは見えてない!!（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 33 号

発行日
2024.08. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○多少悔しくもあるが、次代に託すものがあればよい!!

これまた、突然ではあるが、ある時代を生きる(た)者として、たとえ不本意な人生だ(った)としても、そこに、自らの「生の証し」というものを残すことが出来る(た)ならば、それはそれで、幸せなことだと言える!!すなわち、例えば、私(達)は、様々な立場・役割を演じながら、自分なりに精一杯生きていく(きた)わけであるが(親、そして夫としても)否、こちらは否、そこには、自らの生の意味(意義?)があるはずである!否、それがなければ、甚だ悔しいものともなる(たとえ自己満足、否、負け惜しみであったとしても)!

では、そんな中で、教育関係者(大学教師)としては、どんな「証し」が可能なのであろうか?もちろん、自らの存在と関係を快く受け入れてくれて、そこからそれぞれの人生(仕事)に立ち向かっていく教え子達?が、一人でも多く出現してくれているなら、それが、最高の?「証し」ではある!しかし、実際は、厳しい(最近、とみにそう思う?)!!であれば、他にはないものか?そう思うと、別の思い(願い)も出て来る!それは、細やかではあるが、次代(以降)に託したいものがあるかどうか、それ自体ということになる!!

ただし、その「次代(以降)に託したいもの」は、人によって千差万別であり、その選定や適否は、他の人間にとっては無縁の長物でもある!ちなみに、私の私なりのものは、言わずもがなの?「教育(形態)の三層構造的再編(ひとづくり)とまちづくりの循環システムの構築」理論であるが、問題は、それを、誰に、どのように託すかである!!現在、その感触を得ようとしているが、少なくともこのような形で、HP上に書き記しておくことは、その方途の一つなのではある!

○今回も、様々な人生(スポーツ)ドラマが!

既に(6日現在)、パリオリンピックが始まって、かなりの日数が経った!不幸な、あるいは悲惨な状況(戦争等)が、一方で歴然と進行しているにも拘らず、まるで、それらとは無関係に(別世界のこととして)練り広げられていることに、心のどこかに複雑な思い(この場合は申し訳ないという気持ち?)を持ちながら、テレビを見ているのであるが、今回もまた、体操、柔道、フェンシング等々、様々な人生(スポーツ)ドラマを観させてもらっている(もちろん勝ち負けの妙も含めて)!

その代表は、もちろん?昨日(5日)の男子バレーボールであるが(本当に惜しい試合だった!)、特に思うのは、勝った試合を落としたということである(計4回のマッチポイントを生かせなかった!)!あんなことが、実際に起こるんだということと、それを現実させたイタリヤチームの凄さ(土壇場でミスをしなかった!)とりわけそのキヤブテン?には、ほとほと感心した!あの力(実力)も出来ないが?は、一体どこから来るのであろうか?

ここでは、日本チームの運のなさとか、いざと言った時に力を発揮出来ないとか、いろんな指摘もできるが、日本チームは、そのほとんどを克服してはいた!だから、最後は、神のイタズラだとも思う!まだまだ、競技は続くようであるが、いずれにしても、一番期待していた(楽しみにしていた!)、私の観戦種目は、事実上、これで終わった!!4年に一度の開催だけに、あと何回、それを見ることが出来るのか?そんなことを思いながら、この記事を書いてもいる!それにしても、暑い!

○今年の台風一家(一過?)は!!

何故か、沖縄近海(東太平洋上?)にいる「熱低」が、今回は台風とならない?その理由については、詳しく調べていないので、何とも言えないが、ひよつとしたら、私のところに、別な台風?が近々襲ってくるので、その「熱低」が遠慮しているのかもしれない(笑)!!いずれにしても、奇妙な現象ではある!

それはともかく、もう既に(9日)、その一波?は到達している!宮崎に住む長女とその三男(小4)であるが、例年のこととは言え、あちこちに連れていくのは大変である(空港への迎え・送りを含めて!)!とは言え、残念ながら、これまで恒例となっていた釣りには、暑さと、私の体力(気力?)のせいで行かないことになった!誠に申し訳ないことである!

だが、これもまた、歳月の流れの中では、致し方ないであろう(孫達は楽しみにしていたらしいが?)!私にも、幼い頃の思い出(母方の祖母宅への訪問、そして従妹たちとの再会)が沢山あるが、いつしかそうしたのも徐々に途絶え、今では、自らの家族の中だけの話となっている!しかも、それも、それぞれの生活状況(拠点の分岐によって、かなりの変容を余儀なくされている!まあ、それが人の世(家族)の現実であり、ある時に共有されていた家族あるいは親戚関係の宿命なのでもある!

その後、本日(11日)、その第二波が到達する!まだまだ、こうした帰省光景(再会)は続くのかもしれないが、迎える老夫婦?には、喜び以上に、生活リズムの混乱(心身の錯乱?)が待ち構えている!とにかく、長女一家(5人)のスケジュールは、イベント?満載なのである!!三女の帰省もあるが、まさしく、台風一家(一過?)となること間違いないのである!

ちなみに、本物の台風は、幾つか東北、関東地方に上陸、接近し、かなりの被害をもたらしている!何とも不思議な今夏であるが、ひよつとしたら、これが、通常の光景となっていく(そして秋口には、想像を絶するような台風が、ここ沖縄に襲来する?)!!

追伸。かの台風一家(二過?)は、昨日(14日)午後、慌ただしく帰っていった!毎度のことであるが、寂しさは感じるが、我が日常への回帰が、嬉しくもある私でもある? (井上)

○高校野球、はたまたプロ野球はどこへ行った?!

今日から(7日)、あの高校野球(夏の甲子園大会)が始まった!今回は、試合開始時間を変則的に設定しているといふ(一部ではあるが)。猛暑対策による措置とは言え、元高な情報を頂いた。それは、RMOという考え方(地域運営組織 region management organization)に関するものであった!もさることながら、二ちらの玉垂宮は、古来、筑後国三潯庄鎮守、高良御廟院大善寺玉垂宮と称し、盛時には衆徒四五坊社領三〇〇町を有した朝野の崇敬あつた古社で、祭神は、玉垂命(藤大臣とうのおと・高良玉垂大菩薩とも)・八幡大神・住吉大神で、創建は古く、凡そ一九〇〇年前の創祀と伝えられる!

○RMO?だが、それは、本当は昔からある!! 毎回(多分?20年以上前から?)、定期的に資料を送つてもらつている、兵庫県のKさんから、この度(も)、貴重情報をお願いした。それは、RMOという考え方(地域運営組織 region management organization)に関するものであった!もさることながら、二ちらの玉垂宮は、古来、筑後国三潯庄鎮守、高良御廟院大善寺玉垂宮と称し、盛時には衆徒四五坊社領三〇〇町を有した朝野の崇敬あつた古社で、祭神は、玉垂命(藤大臣とうのおと・高良玉垂大菩薩とも)・八幡大神・住吉大神で、創建は古く、凡そ一九〇〇年前の創祀と伝えられる!

○改めて、古代九州の全体像を探る―その4― しかるに、その高良大社の元宮という「大善寺玉垂宮」というものも併せて視野に入れておく必要がある!何故なら、その元宮ということもさることながら、二ちらの玉垂宮は、古来、筑後国三潯庄鎮守、高良御廟院大善寺玉垂宮と称し、盛時には衆徒四五坊社領三〇〇町を有した朝野の崇敬あつた古社で、祭神は、玉垂命(藤大臣とうのおと・高良玉垂大菩薩とも)・八幡大神・住吉大神で、創建は古く、凡そ一九〇〇年前の創祀と伝えられる!

そう言えば、今年の「春のセンバツ」から、新基準のバット(低反発バット)が導入されているらしく(今回、初めて知つた!)、ここまでの試合でのホームラン数が著しく少ない!打球による負傷事故防止(特に投手、投手の負担軽減によるケガ防止)高投低の是正が導入の目的らしいが、考え方は、私が唱えてきた「教育協働」というものと軌を一にするものである!!だから、これについては、別途「教安泰和尚によつて開基された」とある(また、そこは、「天皇屋敷」とも呼ばれていたという)。

ただ、いづれにしても、こちらの宮の創建についても、景行天皇の皇子國乳別くにちぢ皇子を始祖とする「水沼君」が当地を治め、その祖神を祀つたのが、その前身と考えられているが、前述の三神のうち、藤大臣(玉垂命?)は、神功皇后の三韓出兵に大功があり、『吉山旧記』(往時の社家の記録)によれば、藤大臣は仁徳天皇五年(三六九年)高村(大善寺の古名)に御宮を造営し、筑紫の政事を行ったが、仁徳天皇七八年(三九〇年)にこの地に没し祀られ、高良玉垂宮と諡おくりなされたという。そこに、まさに「武内宿禰」の存在が絡まつてくるのであり、そこには、かなりの謎が横たわつていたのである!!(つづく)

○改めて、古代九州の全体像を探る―その4― しかるに、その高良大社の元宮という「大善寺玉垂宮」というものも併せて視野に入れておく必要がある!何故なら、その元宮ということもさることながら、二ちらの玉垂宮は、古来、筑後国三潯庄鎮守、高良御廟院大善寺玉垂宮と称し、盛時には衆徒四五坊社領三〇〇町を有した朝野の崇敬あつた古社で、祭神は、玉垂命(藤大臣とうのおと・高良玉垂大菩薩とも)・八幡大神・住吉大神で、創建は古く、凡そ一九〇〇年前の創祀と伝えられる!

味が無くなるとも言え、誠に残念ではある!! 次代に託すもの、細やかなりしも あつて欲しい、それは己が生きた証し故! 虚飾ではあるが、そこには、それを超えた、ドラマあり! 「熱低」が、台風にならない? それは何故? そこには別な台風迫る故? 高校野球、そしてプロ野球も! 残念ながら、気にならず? 薄情者? 昔からある RMAの形? 社会教育(行政)は、それがウリであつたはず!

・オリピック 虚飾ではあるが、そこには、それを超えた、ドラマあり! ・「熱低」が、台風にならない? それは何故? そこには別な台風迫る故? ・高校野球、そしてプロ野球も! 残念ながら、気にならず? 薄情者? ・昔からある RMAの形? 社会教育(行政)は、それがウリであつたはず!

○改めて、古代九州の全体像を探る―その4― しかるに、その高良大社の元宮という「大善寺玉垂宮」というものも併せて視野に入れておく必要がある!何故なら、その元宮ということもさることながら、二ちらの玉垂宮は、古来、筑後国三潯庄鎮守、高良御廟院大善寺玉垂宮と称し、盛時には衆徒四五坊社領三〇〇町を有した朝野の崇敬あつた古社で、祭神は、玉垂命(藤大臣とうのおと・高良玉垂大菩薩とも)・八幡大神・住吉大神で、創建は古く、凡そ一九〇〇年前の創祀と伝えられる!

○編集後記 今日(15日)は、79回目の終戦記念日である! 我々は、様々なことに出会い、その喜怒哀楽と共に、自らの生を送つていくわけであるが、振り返りの節目としては、この日は大切な日であることは言うまでもない! (井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 34 号

発行日 2024.08. 30
編集・発行 井上講四/堂本彰夫
※連絡先 千901-2225
沖縄県宜野湾市 大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail: gakyuou17@outlook.jp

○終戦記念日に想う！「新しい戦前」とも言われるが…

昨日(15日)は、79回目の終戦記念日であった！終戦7年後に生まれた私は、まったくその戦争とは無縁の世代であるが、この時期になると、関連のイベントやテレビ番組等、その悲惨さが繰り返し呼び覚まされるので、否が応でも、そのことに対する感慨や複雑な想いが募る！とは言え、日常の自分の言動(生活)は、まったくそれとはかけ離れたものである。ある意味それは、半ば取ってつけたような感ではある！戦争反対！平和の有難さ！そんなことさえ、安っぽいヒューマニズムの受け売りのように思えるのである！

だから、これまでは、ほとんど、それに関わる想いは書かなかった！否、書いてはいけない(書く資格がない?)と思ってきたのである！だが、そんな中、今回偶々観たNHKの番組に、何故か心を奪われた！『新・ドキュメント太平洋戦争 1944 絶望の空の下』というものであったが、「太平洋戦争の3年8か月を、当時の日記や手記から追体験するシリーズ。第4回は市民の犠牲が急増した1944年。1万の住民が犠牲となったサイパン島の戦いを、14歳の少女の手記からたどる。この年、本土空襲が本格化、戦火が市民に及ぶ。追い詰められた日本は、人間を兵器にする「特攻」に踏み出す。その犠牲となった若者たちは、みずみずしい感性で、思いを書き残していた。市民の生活はいかに戦争に侵食されていたのか。」そんな解説もあった！

とにかく、当事者達(人間魚雷「回天」の乗組員を含めた)の「生のあり様」を直に知った！悲惨としか言いようがないが、「新しい戦前」というような言われ方をしている現状である！果たしてどうなっていくのか？根っからの悪人はいないはずなのだが、何故か？そうなるっていく部分もある!!

○やはり、高校野球は(否、も?)素晴らしい！

過日オリンピックも終わり、スポーツ関係のテレビ番組は、ほとんど見なくなつた私であるが、今朝(21日)、遅い朝食(いつも通りだが!)を取りながら、少しは気になつていたら？高校野球(進決勝第一試合の最後の辺り)を見てしまった！どちらも素晴らしいチーム(関東第一高校と神村学園)で、一点を争う好ゲームであったが、結果は、2対1で関東第一高校の勝利となつた！しかも、劇的な幕切れであつた(ヒットで帰ってきた選手が、本塁上で、僅かな差でタッチアウト！ゲームセット)！

先にも、元高校球児である私は、最早野球のことは、ほとんど興味はないと豪語？していたが(薄情者?)、やはり心の奥底には、そうではないものが残っているのである！それは、おそらく自らの当時の姿(地方大会の2回戦で惨めな敗戦!)が重なっているのだから、勝利するチームの選手達のひたむきさ(技能も!)に、どこかで圧倒されていた(る?)自分を感じるからであろう(だから、思い出さなくてもいいのである?)!!

ちなみに、神村学園の選手達は、みな坊主頭(一厘方ツツ?)で、最近の光景からすると、逆に異様な感じもしたが、彼らの心意気を表すものとして(昔は、それが当たり前であつた!)、前向きに評価しておきたい(ただし、これについては、おそらく異論も多いであろう?)!

追伸 本日(23日)、その決勝戦(京都国際高校対関東第一高校)を見た！とてもいい試合であつた(これもまた、球史に残る名勝負となろう!)そして、その球児達は、何故か、まばゆいばかりの若者達であつた!

○世は代表選で喧しい！だが、「新しい戦前」はどつなる？

国内(否、世界中?)の耳目を集めていた？オリンピックも終わり、今や、米大統領選の状況報告を筆頭に、自民党総裁選、立憲民主党(公明党も!)代表選の報道が喧しい！現在、私が住んでいる宜野湾市の市長選挙も行われる(現職だった市長が旅先で逝き!)とにかく、トップの仕事は大変である！なのに、その地位に就きたい人がいる？周囲に担がれて立候補する人もいるようであるが、甘い覚悟で出来るものではない(出世欲、権謀術数が好きな人はともかく!)！余談であるが、某県知事(S氏)のスキヤンダル(醜聞?)、本当だとしたら、これほど酷いものはない？トップに立つ人間の品性の問題ではあるが、それを許す？(選挙で選挙 側の問題でもある?)!

ちなみに、「○○維新の会」とか、「○○新選組」とか、かつては「新党魁^{まがけ}」とか、まさに時代を乗り越えよう(突破しよう)というようなスローガン(政治信条?)で、それなりのインパクトを与えようとしている(した)人達がいる(た)が、やはりその壁は厚く？、国全体を、鋭意動かしていくような力とはなっていない!!あるいは、選挙自体の人気者というような形で、名乗りを上げる人もいる(いた)が、結局は、彼らも、選挙ドラマ(否、政治ショー?)の盛り上げ役にしかなくなつていない(本人が、それでよいと思つているかどうかは分からないが?)!!

先にも書いたが、今我が国(否、全世界?)は、まさに「新しい戦前」と言えるのかもしれない！しかし、それを、言うだけだつたら、何も始まらない！誰が、どんなことをしようとも、いずれは、かの悲惨な戦争へと流れ込んでいくともいえるのか(もちろん、その可能性があるとはいえるが?)？要は、極端に言えば、この国の形/将来を、どのようにしていくのか(していけばいいのか)のグラウンドヴィジョンが必要なのである！裏金問題とか、それを追及するとか、そういうステージの問題ではないのである(マスコミの餌食となるだけ?)!

「世の中を良くしたい」ということは、実はそういうことなのだ、そのヴィジョンが見えない(言うのは簡単だが?)!!見ようとしても、いつの間にか、誰かに潰される!! (井上)

○「独り善がり」か？それとも「内なる納得」か？

本日(22日)、最近、午後の恒例(高齢?)現象となつてゐるうたた寝をしながら、半分?ユーチューブを見て(開いて?)いたのであるが、偶然面白い番組に遭遇した!それは、表面の記事とも関わるが、ある偉人の話である(期間限定特別公開!BS11「偉人・素顔の履歴書」沢沢栄一編)『日本近代資本主義の父・沢沢栄一編』(配信期間:2024年7月7日~8月31日)!そして、そこには、次のような解説文があつた!「今回は、現代にも続く経済と産業の礎を築いた沢沢栄一。農民から武士、役人から実業家へと身を展示(転じ?)、いかにして日本近代資本主義の父となつたのか?」

番組では、彼のとなりや業績を、一通り紹介してしたが、私は、かのNHKの大河ドラマ「晴天を衝け」2021年を見ていたので、ほとんどのことは分かつていた(覚えていた!)!そういう意味では、あまり新鮮味は感じられなかつた?ただ、他者の評価や、そのことの意味を、改めて知り、別な感動?を得ることが出来た!それにしても、途轍もない功績、否、素敵な人生を送つたものである!幕末、維新の人物で、こうした異彩を放つた人物は、ほとんど知られていなかったということでもあるが、一人の人物の人間臭さを、こんな形で感じ入ることが出来るなんて!:

ちなみに、沢沢を、「独り善がりの人」と、解説者のK氏(歴史家・作家)は断じていたが、ひよつとしたら、この表現(評価)は、かなりの誤解を生むかもしれない!!私としては、「自らの言動の、内なる納得者」というように捉えれば、これもまた、言い得て妙だと言えなくもないなと思つたりもした!とんだ昼寝?の贈り物であつた!
追伸 私は、まだ彼の新札にお目にかかつていない!カネの流通にまつた縁のない存在になつてゐるということである(笑)!!これもまた、「内なる納得」と言える!!だが、それは、余りにも違い過ぎる(こちらは哀愁?)!

○これは、単なる国際化ではない?「国」の変化である!!

今回の、甲子園夏の大会の優勝校、京都国際高校の校歌が、何度となく流れた!やはり、奇異に感じたことは、その歌詞がハングルであつたことである(ただし、日本語訳も併せてあつた!)!選手達は、見た目も、名前も、まさに日本人であつたが、母国?朝鮮(韓国)の人間であること(デンティティ)をどう思つてゐるのであろうか?薄っぺらな、民族、歴史認識問題論議を、ここで行うつもりはないが(そもそもしたくない!否、出来ない!)、目の前の光景は、それらを遥かに超えた「新たな現実」(未来?)を感じさせるものでもあつた(詳しい表情は分からないが!)!!

しかも、先のオリンピックの出場選手の顔ぶれ(文字通りの意味)を見ると、最早、人種とか、肌の色の違いなどは、遥かに国境?を超えている!「国際化」とか、「グローバルスタンダード」とか、「多様性」とか、よく言われるが、それは、人類が新たな段階(融合国家?)への道を、確実に歩み始めている証拠でもある!!改めて、「国(国家)とは何か?」を考えなければならぬ!!

・「短歌に託して」書けることの有難さ?<>
・手記・手紙は残酷? 書き手はその時を 精一杯生きていただけなのに!

- ・まばゆいばかりの若者達!
- ・少し休んでくれ 今はそれで十分だ!
- ・そんなにリーダーになりたいのか?
- ・苦悩するぞ! それでもいいのか?
- ・「独り善がり」? 「内なる納得」?
- ・どちらでもよい? 何を為したかである!
- ・「国際化」を通り越した 国自体の変化!!
- ・世界は既に そうなつてゐる!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕④<>

○改めて、古代九州の全体像を探る!その5-1
となると、当地(高良山周辺)においては、まず、景行天皇の皇子国乳別皇子を始祖とする「水沼君」がその地を治め(そこに先住していた?肥前水上/背振山南麓の桜桃沈輪、熊襲?を討滅した?)、その後、そこに神功皇后や武内宿禰の勢力が流入し、高良山を拠点にした、いわゆる「九州王朝」(の祖型?)が出現した!!そして、それが、その後の、いわゆる「倭の五王」時代を作つていくことである!!要は、その地は、少なくとも三つの勢力の攻防(融合?)の地でもあつたということである!

しかるに、ここが重要であるが、それらの勢力の攻防(融合?)の結果、近畿に移動する勢力(崇神/饒速日勢力+物部氏)とそこに居続けた勢力(開化天皇勢力?最終的には大宰府方面に移動した?)が、その後の「二つの倭国(二時期は三つか?)」を形成し、九州(筑紫、倭国を母体にしながらも、広範な領域国家を実現させていったということである(なお、その祖型を変えたのが、かの6世紀初頭の「磐井の乱」であつた?)!!しかも、冷静に捉えれば、それらは、まさに「空白の4世紀」頃の話であり、ある意味では、そこでの推移(全体像)が、後世の我々にとつての「空白(の世紀)」となつてゐるのである(もちろん、表面的には、中国史書に載つていないということであるが!)

という(下)で、ここでは、改めて、その中心人物として描かれている、かの「武内宿禰」の謎を追究していく必要があるわけであるが、その一番の謎(異音なまでの長寿はともかく)は、彼が、蘇我氏、葛城氏、紀氏等、いわゆる「葛城諸族の祖」とされていることであり、そしてまた、ある時期の政權中枢であつた高良大社周辺において、北部九州勢力と中南部九州勢力(熊襲)の双方(ただし、それぞれの一部は、後の近畿勢力とも言える?)に關係してゐることである!したがつて、そこに登場してゐる、藤原大臣(武内宿禰?)、神功皇后、その夫とされる仲哀天皇、その子とされている応神天皇等の事績究明(史実解明)が、つとに待たれるのである!(つづく)
(堂本)

〈編集後記〉 今年、実に盛り沢山の8月であつたが、その締めが台風(10号)とは...進路が尋常ではない(雨量も)!今はただ、過ぎ去ることを見詰める他ない?願う!被害小! (井上/堂本)

「岳陽」と共に

第 35 号

発行日 2024.09. 15
 編集・発行 井上講四/堂本彰夫
 ※連絡先 〒901-2225 沖縄県宜野湾市 大謝名 3-13-24 教育協働研究所 ~岳陽舎~ (井上講四宅)
 Tel:098-963-9282
 E-mail: gakyuou17@outlook.jp

○変わらなければいけないのに、何故変わらぬ!!

今日から、9月である！季節はずれの、しかも飛んでもない台風(10号)が、列島各地(敢えてこう書く!)を襲った!当地にとつてみれば、まさに「青天の霹靂」であったろうが、地球(気候)は、やはり激変しているのである!地球温暖化の為せる業でもあろうが、国内外の世情の変化も実は、それ以上に進んでいる?では、我々の生活意識は、それに対応するだけのものとなっているであろうか? 様々に対応できる動きを取っている人(達)もいるであろうが、こと「政治」の世界は、相変わらずである!!

ところで、今日、私の住んでいるG市では、市長選挙の公示日である!立候補者(二人)の選挙カーが、入れ替わり立ち代わり、我が居住区を(も?)回っているが(随分前からそうであった?)、申し訳ないが、ほとんど新鮮味が無い!!顔触れは変わっても(一人は、元職者であるが!)、選挙自体のスタンス?が変わっていないということである? 相変わらずの構図と言えはそれまでであるが(ここには詳しくは書かない!)、例の問題を含めて、どちらが当選するにしても(←本日8日結果が出た!)、事態はほとんど変わらないようにも思う(多分、多くの人がそう思っている?)!!

ちなみに、ネット上で、面白い記事を読んだ!元大阪府知事/大阪市長のH氏の論稿記事であるが、いわゆる「無党派層」の取り込み?をいかにすればよいかということであった(ただし、それは、いわゆる「総選挙」における戦略ではあるが!)?政治戦略と言えはそれまでであるが、我々は、出て来た候補者の誰かを選ばなければいけないのである! そうであるならば、その一点で、変化を期待する他ない!!

○「頑張るな!」(にあるメタファー)を勘違いするな!

ところで、最近、とみに聞かれるのが、「頑張るな!」(あるいは「頑張り過ぎるな!」)という物言いである!だが、頑張り過ぎることは、間違いないよいことである!それは、子どもの世界であれ、大人の世界であれ、至るところで実感される(それが普通でもある!)!だから、この「頑張りな(頑張り過ぎるな!)」という言葉(メタファー)は、短絡的に捉えれば、その反対を求めている(ストップをかけている?)ことにもなる!!もちろん、そうではないであろう!要は、現時点(これまで)の自分(達)の頑張り、少し冷静に見つめ直してみよう!そういうことなのだと思おう!

今どき、こういうことを言うと、何と時代錯誤なのだから、本当に苦しんでいる人達の訴え(惨状?)が分かっていないのだとか言われそうであるが、どうしても、私にはその言質の曲解(都合のいい肯定?)が気になるのである! みんな頑張り過ぎるからこそ、今があるのであり、将来の自分(達)があるのである!ただ、本当に、必要以上の過多があったり、低収入で喘いでいるのであれば、それはそれで、絶対に解決されなければならないのではある!だが、そのことと、自らの業務や責任の遂行とは、基本的に無関係である(頑張りなくてはいけないのである!)!!

要は、どのようにしたら、その過多を減らせるのか?どのようにしたら、そこに、自らの「働きたい」を見い出せるのか?そこが重要だということである!かの「働き方改革」とは、業務や責任の量を単純に減らすことでもなく、労働時間の短縮でもない(ましてや給料の上乗せで済むものでもない?)!まさに、「働き甲斐改革」なのである!

○もう一人の自分が、自らを救う?

敢えて今、こういうことを書くことに、どれほどの意味(重要性)があるのかは、自分でもよく分からないが、一度は書いておきたいことではあるので、少しチャレンジしておきたい!直接の動機としては、先般も触れたが、AGFと言う名の女性歌手の登場光景である!彼女は、いわゆる「ボーカロイド」として脚光を浴びているわけであるが、一人の人間(女の子)が、生き辛い現実(表)から逃避するために(こう言い切ってしまうには問題があるかもしれないが?)、もう一人の自分(世界)をPC上に築き上げ、逞しく?生きていくということに対してである!

ところで、「もう一人の自分」ということであれば、古くはペンネーム(雅号等を含む)という存在がある(他ならぬ私も、それを活用?している!)!近年では、ITの進展によるハンドルネーム(品性や知性に欠けるものも多いが?)やアバターも、そういうことになるであろう!!ちなみに、「Ido」という名前は、小学生の時、国語の授業で聞いた、狂言の「シテ」と「アド」が由来。響きのかっこよさに惹かれて名乗ったが、主役のシテを支えるのが脇役のアドと知り、自分の曲を聴いてくれる人に代わって戦う存在、誰かの人生の脇役になりたいという意味も後付けで込められているらしい(また、英語の「Ido」には「骨折り」「騒ぎ」「面倒」という意味があり、「自分に合っている気がする」。本人曰く「根暗で自信がない」性格。通常の歌手では無く「歌い手」の道を選んだのも自分の姿が商品になることに抵抗があったからだとなる)。

これについては、先日見た『日曜日の初耳学』での米津玄師のことも思い出される!番組では、名曲「Lemon」に込められた祖父への想い、宮崎駿監督からのオファーで誕生した「地球儀」など、ヒット曲誕生の裏話から謎過ぎる私生活についてまで迫るとあったが、彼にも、ここで言う「もう一人の自分」が、逞しく創られているということである!!余計なことではあるが、折角創り上げた「もう一人の自分」が、かの「業界(芸能界?)」に掻き乱され、気がつけば、健全な人格?を失ってしまうのではないかと懸念もあるが、人は、「もう一人の自分」がいることで、救われるということでもある!!

(井上)

○諸悪の根源？は「拒否権」の存在にある？！

最近では、米国大統領選の逐次情報、そして、我が国の首相決定に繋がる、ある党の総裁選の様子が、嫌と言うほどマスコミによって報じられているが(別の党の代表選のことも含むが)、かのウクライナ戦争やガザ地区の災禍の行く末を、本当は、どうにかしないとイケないのだが、そのカギを握っているはずの「国連」の動きが、まったく報じられていない(戦争の災禍だけは、相変わらず報じられているが)！

ニューズバリューがないということではあるが、最近、これといった動きがないということであれば、それ(直接的には「安保理」は、まったく「機能不全(麻痺?)」を起しているということでもある！もちろん、主因は、「常任理事国」(強国?)の「拒否権」にあるが、その発動によって、他の多くの国々が、「変わりようがない！そうであるなら、自分達の(も?)私利私欲で生きていくしかない!」、そういうことになってしまっているというところである(結果、「バイの分捕り合戦」への部分参加、あるいは傍観の場としかかっていないということである?)!!

ところで、過日、「80億人 人類繁栄の秘密」というテレビ番組(NHK「フロンティア」)を観た。「今世紀中に100億人を突破すると予測されている…人類。言語や道具を用い、高度な文明を築き上げてきた。しかし、繁栄の理由はそれだけではない。実は、文字が生まれるよりはるか前に、現在の繁栄に通じる出来事があった…。「ヒト」という生物を改めて見つめ直し、人類繁栄の秘密に迫る」ともあったが、それが「共同(協働)性」である！だが、その「共同(協働)性」が危ない!!だから、「国連」においては、少なくとも、紛争の「当事者」が「常任理事国」である場合には、その権限(拒否権)は停止されるべきである!そのことを、総会によって決める!それが筋というものである!!それが出来なければ、「ヒト」の繁栄は、いずれ終わる(動物実験から)!!

○神社は、何故多いのか？

これもまた、敢えて今ここで書くほどのことではないが、我が国には、「神社」というものが多い。ただし、ここで言う神社とは、観光地や○○祭で有名な、煌びやかで、(失礼だが)いかにも儲かっている風な神社ではない!寂れた集落の一角(鎮守の森?)に、ひっそりと佇んでいる、廃社とは言わないが、色褪せた社屋(殿)で、まるで誰も訪れていないような(言い換えれば、見捨てられたような感がある?)神社を指している!

自然崇拜(アニミズム)、磐座/神奈備(山)/祖霊信仰等、様々なルーツがあるのであるが、この歳になって思うことは、そういう形で、自らの精神性(心性)を、日常生活の奥底に置き、ただひたすら世話をする、名も無き氏子さん達のことである!遷座地の移動や社家の交代、祭神(名)の変更や改竄(合祀や付加を含む)等の苦難があつたであろうが、どうして、そのような対応ができるのか?その精神性(心性)は、おそらく縄文から続く、我が日本人の生き様そして、その来し方にあるのかもしれない!!

- ・「頑張るな!」を勘違いするな!
- ・そのメタファーには 落とし穴あり!!
- ・もう一人の自分 どんな形であろうか
- ・絶対が必要! 生きていけるのだから!!
- ・「拒否権」は あつてもいいが
- ・強者の我儘に随せば 元も子もない!
- ・煌びやかな社に興味はないが
- ・そつとそこにあるものには 何故か惹かれる!
- ・短歌に託してさきりげない「ハレ」と「ケ」の世界?<
- ・変わらなければいけないのに 何故変わらんない!!
- ・変わりがたくない人がいるからか?

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕 ⑤

○改めて、古代九州の全体像を探るーその6ー
さて、前にも述べたかとも思うが、件の「武内宿禰(藤原大臣?)は、常に「神功皇后」に寄り添うように、筑後に現れたり、朝鮮半島に渡ったり、さらには、何故か、北陸や東北においても顔を見せている!ましてや終焉の地?が、山陰(鳥居?)ともされている!まるで彼は、かの倭の五王の最後(武?)が、宋への上表文(9世紀末)で述べている「祖禰(先祖?)」そのものようである(年代的にも合う異常な年齢も?)!!

でも、もしそうであるならば、彼は、ある特定の人物ではなく、ある勢力の統合(和合?)人格として描かれているのかもしれない?あるいはまた、当該の何人かの人物、さらにはその勢力(高城諸族)を、総称して名付けたものなのかもしれない(前者は、そのためもあってか、現代でも、その○○世と名乗っている人がいる!)!!ちなみに、彼自身?は、景行/成務/仲哀(神功皇后)/応神/仁徳の、6代の天皇(主君)に仕えたこととされている!

とは言え、かの高良大社周辺では、邪馬台国の交番(解体?)に前後して(9世紀末から4世紀初頭?)、北・西からは背振山麓勢力(新羅・多羅・百濟王族?)、南・東からは球磨曾於(多氏勢力)が、それぞれ集散離合を重ねながら、まさに「倭の五王」の時代を迎えるということである(筑紫倭国を中心とした、新たな倭国(大倭国)倭国?)!!それが、実は、通説(俗説?)による「河内王朝」の事績と、どのように結びつくのかということであるが、この史実がクリアされれば(本当のことか分かれれば)、謎だらけの古代史(建国史)解明も、一気に進むことになる!!

とにかく、ここでは、二つの倭国?が形成されていたこと、そしてそれを、かの「武志」が、「祖禰(先祖?)」の国王(拡大統一?)としていたこと、そういうことが分かるのである!!だが、問題は、それらが、いつ、どのようになされていったのかである!それを、脚色物語という形でデフォルメしたのが、かの「記紀」ということになるが、最終的な形が「持統・藤原体制」であったことは言うまでもない!!(つづく) (堂本)

〈編集後記〉久し振りに(奄美群島の人には申し訳ないが)、台風に襲われると思つたが、肩透かしに終わった!夜のペランダから北の上空を見ると、雲の動きがよく見えた!おそらく、この延長線上のどこかに台風を中心があるのだと思われるが、ここでは、ただそれだけだ!次はどうなる? (井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 36 号

発行日

2024.9. 30

編集・発行

井上講四／堂本彰夫

※連絡先

〒901-2225

沖縄県宜野湾市

大謝名 3-13-24

教育協働研究所

～岳陽舎～

(井上講四宅)

Tel:098-963-9282

E-mail:

gakuyou17@outlook.jp

○大谷選手の偉業に想つー凄い若者がいるものである！

俗に言う「ミハー」的なことは思うが、昨日(20日)

の、メジャーリーガー「大谷翔平」選手の偉業(50本塁打) 50盗塁達成(本日52/52)については、何らかの感想を書きたくておきたい！そう思うのである！朝(と言っても、かなられる者、育てる者と育てられる者の邂逅の場、関係であり遅い！)起きて一階に降りていったら、普通は何も言わない我が奥さんが、「大谷選手が凄いことをした！」(というように言い振りだったと思うが?)と、私に告げたのである！一瞬、何のことかと思つたが、そう言えば、その日(日本時間の早朝)の試合は、もう終わっていたのだ！

「ホームランを3本も打つたのよ」ということだったが、その光景はすぐには見れないので、早々に朝食を済まして、二階の部屋に戻って、早速パソコンでネット記事を開いてみる！

た！まとまったホームラン記事はなかったが、いくつかまとめてあったので、その連続性？は、かなりリアルに感じることが出来た！それにしても、6打数6安打、ホームラン3本、打点10、盗塁1とは!!とてもじゃないが、通常ではあり得ない！本当に、何という怪物なのだ！

シーズン当初の怪事件(二つ間違えれば、とんでもない事態が待ち受けていた?)、私生活等々、マスコミ界を賑わすスーパースターでもある彼であるが、その存在は、羨ましさを超えて、神々しくも見える(その相貌は、やんちゃな妖精のように愛らしく、とてもそのようには見えないが笑)！ただ、私は、彼のこ

○働き甲斐や生き甲斐は与えられるものではない！

さて、今回は、かなり「学校(教師)」についての言及

を行うことになるが、もちろん、そこにあるのは、偶々、そこで練り広げられる人と人との出会い(教える者と教えられる者、育てる者と育てられる者の邂逅の場、関係)であり、私が、どんなに言葉弄しても、当事者達には分かっていないことである！しかも、外から、その弥縫策？を述べるしか、術がないのもある！だから、その弥縫策？について、批判ばかりしても始まらないのである！

しかるに、残念ながら、働き甲斐や生き甲斐は、当事者達が、自ら(内面から)得るものであり、他所から与えられるものではない！結局は、本人が、苦勞(苦惱)して得るしかない！しかもそれが、「先生」と呼ばれる者の宿命でもある！ただし、周囲が、その足を引っ張るだけであつたら、それこそ元も子もない！そこが今、問

われているのである！言っておくが、そこから離れて別世界を作っていくだけでは、何も生まない！！

ただし、上記のように、そうした先生がいなくても(実はいたのであろうが!)、遅く、そして颯爽と(苦勞を苦勞とも思わずに!)、自らの世界、やりがいを見出して、自らが、そういうことを言うことには、反論はないし、むしろ好みながみんな、そうも出来ない！とは言え、与えられるものではない！だから、「先生」が必要なのである！

○「せんせい」！「赤鬼」は、いつ、どのよつに泣けばよい？

もう随分前だが、『泣くな赤鬼』という映画(2019年6月公開。主演・堤真一。原作・重松清の『せんせい』所収の同名短編小説)を、テレビで見た！そのストーリーは、「高校の教師であり、野球部の監督を務める齋藤(通称「赤鬼先生」)と、その元教え子であるゴルゴこと齋藤智之との再会を描く。赤鬼は、かつては生徒たちに厳しく接し、特に才能を持っていたゴルゴには特別な期待を寄せていた。」

しかし、ゴルゴは高校を中退し、その後の人生で挫折を経験。時が経ち、大人になったゴルゴは末期がんに侵され、余命宣告を受ける。そんな中、赤鬼と再会し、かつての過ちや人生の選択について語り合う。映画は、二人の過去の因縁と和解を描きながら、教師と生徒の関係、人生の儚さ、そして人間としての成長を深く掘り下げていく。

「クライマックスでは、ゴルゴが余命僅かであることを知った赤鬼が、彼のために最後の力を尽くす。ゴルゴは、かつての夢を叶えることができなかつた悔しさと、先生への感謝の気持ちを赤鬼に伝える。赤鬼も、ゴルゴの人生に対する後悔や自分の教育方法に対する反省を深く語る。最終的に、彼は家族や赤鬼先生に見守られながら息を引き取り、感動的な余韻を残して幕を閉じる。」

「この結末は、人生の選択と結果、他者との関係の重要性を観客に強く訴えかける。教師と生徒の絆や人生の選択という普遍的なテーマを扱っており、中でも特に教育の意味や、人が他者に与える影響について深く考察(赤鬼は、自分が過去に取つた厳しい態度が、ゴルゴの人生にどのような影響を与えたのかを深く反省し、後悔の念を抱く)先生の厳しい教育方針が、必ずしも正しい結果をもたらしたわけではなく、むしろ生徒の人生に大きな影を落とした可能性が…」。

「最終的には、二人が過去を乗り越えて再び心を通わせる姿が描かれ、和解と赦しのメッセージが…」。

とまあ、ほぼ記事の丸写しとなつたが、私としては、「和解と赦しのメッセージ」ということが、何故か気になつた(私にも、心当たりがあるからである!!)！「先生(赤鬼)は、いつ、どのよつに泣けばよいのか?ただ、「赤鬼」は、今どこに? (井上)」

○間違ではないが、それで解決できるのか？

話題としては、かなり古く？なつたが、先月(8/27)、中央教育審議会が、「学校における働き方改革」、「教師の処遇改善」、「学校の指導・運営体制の充実」の在り方について答申した。ここでは、備忘も兼ねて、少し触れておきたい。注目したいのは、「教育委員会にDX化を！」であるが(何故なら、それが、「働き方改革の更なる加速化」につながるからである)、今一番必要とされるのは、改革の成果としての「実感」だからである(彼らには、仕事量の増加による、度重なるスローガン・施策への不信が最高潮に達している?)!

具体的には、時間外勤務を月80時間以内に抑え、その進捗状況を「見える化」し、PDCAサイクルを通じて継続的に改善、適切な休憩を取れるよう、昼食時間の交代制、業務終了から翌日の業務開始までに一定の時間を確保する勤務間インターバル。その実現方法として、ICTの活用(環境整備→IGAスクール構想の下での校務DXを加速。教育委員会に対しては、汎用クラウドツールの活用、ペーパーレス化、日常的な情報交換のオンライン化などによるデジタル化が提案されている!)

なお、「学校の指導・運営体制の充実」では、教職員定数の改善と配置の再検討、若手教員への支援強化、学校内外の連携機能を強化するための「新たな職」の創設、支援スタッフの拡充など。さらに、社会人の学校への参入などにより、多様な専門性を有する教職員集団の形成(免許制度の検討)。「教師の処遇改善」では、給与体系や職種にも踏み込み(約7%の優遇措置があったものの、今では優遇分はほとんどなくなっている?)、教職調整額の率は少なくとも10%以上、加えて、学級担任には義務教育等教員特別手当の額を加算、管理職について手当を改善などとなっている。

だが、どれも間違ではないが、果たしてそれで解決できるのか?もつと別な視点が必要だとも思うが、とにかく、今は、それでいくしかない!!ただし、そこに、「働き甲斐よ!生き甲斐よ!何処に彷徨う?」とならないことを願う!

○押しかけ(お節介?)が、学校(教師)を変える!!

度重なる改革・改善策の提示!しかし、それが出てくる度に、いわゆる現場は困惑・混乱し、今では、不信感・絶望感が蔓延し、心を閉ざし(壊し)、挙句の果てには、そこを去っていく者多し。一体、何故そうなっていくのか?働き甲斐とか、生き甲斐とか言っても、それが実感出来ないならば、そうなるのも止む無しとは言えるが、実は、朗報もないわけではない!

詳しくは、別途書いているが(「新教育協働への道」)、あの公民館の職員が、近場の小学校に、半ば「押しかけ」的に出向き(1日半)、それをきっかけにして、当該の教員達と一緒に授業づくり等を行ってきたが、最近では、他ならぬ教員達からの積極的なアプローチが増え、「迷惑感」や「負担感」等は、最早消えているという!とであった!実は今最も必要なのは、この光景である!これがなければ、どんなに立派な(そしてカネをかけた)施策であっても、現場は変わらない(動かない)!要は、「実感」と「納得」が、そこにあるかどうかなのである!<短歌に託して>結局は、自ら感得するしかない!!<

・ 凄く若者が いるものである!!

それしか言わない 否、それでよい!

・ 働き甲斐や生き甲斐 みんな分かってはいるのだ!

それがないと やつてはいけないことを!

・ 働き方改革 くだいようだが 働き甲斐改革では?

そつでなければ 何になる?!

・ 「赤鬼」とついてはいるが それほどでもなく?

もともと「鬼」は 優しいのだ!!

・ 今これが必要なのだ! それさえ生まれれば

弥縫策も生きる! 頑張れ当事者達!

<特別コーナー>堂本彰夫の古代史旅枕 ③<>

○改めて、古代九州の全体像を探る―その7―

要は、5世紀末までに(倭の倭の五王時代)、その版図が最大限に拡大し、その結果、東(分家・檀弓を国家/河内)と西(全案/筑後)に、それぞれの拠点(置かれた)ということであるが、少なくとも、8世紀初頭までは、本家としての筑紫(倭)九州王朝は、歴然と存在していたということであり(形式上は、701年の「大宝律令」制定までは存続していた!密儀を朱雀大通りの遺跡あり)、その間の「白村江の戦い」(663年・百濟復讐戦)は、その九州王朝(全案)が主導したということである!

だが、その敗戦によって(しかも、679年の「筑紫大地震」も加わって)、倭国(九州王朝)は、壊滅的な状況を迎えていた(大和への集団移住/唐軍の駐留/備前政権の誕生)。事件の天智天皇(中大兄皇子)は、その倭国九州王朝(上皇)の類縁者ではあったが、正統(第一義)な後継者ではなかった(だから、当初は「称制」であった)。おそらく、その正統(第一義)な後継者は、例の蘇我氏(上皇)であったと思われるが、その宗家である「蝦夷/入鹿」を滅したので(2日)の姿、天智天皇側(後の持統・藤原政権)は、二重の背徳(後のたき)を背負って、自らの正統・正当性を必死に創り出そうとした(日本書紀は、そのための書でもあったのである)!!

まあ、この辺については、通説とはかなり違った推測ではあるが(その意味では恐ろ言われるかもしれないが)、今後明らかにされていくものと思っ

ている(日本書紀が、最も隠したいこと、つまり、天武王統/蘇我・物部勢力(上皇)の存在と事績を、精緻に辿っていけば、自ずと分かってくる!ただし、そのことは、私個人では、到底無理であるので(時間的にも、能力的にも)、その解明視点を同調される人が、一人でも多く出現されることを望む次第である!

ただし、私の努力/能力不足の故に、ひよつとしたら、もう既にそうした視点からの史実解明を行っている人(達)もいる。いつか出会えれば(ネット上)、嬉しいものである! (つづく) (堂本)

<編集後記> 今日で、9月が終わる!まだまだ暑い日(別な暑い日も) 続いているが、刻々と、状況が変わっていることは間違いない!自らの「生」が、そうした状況の変化に随行させられることは、ある意味仕方ないが、やはり季節の「四季」だけはあつて欲しいものである! (井上/堂本)